

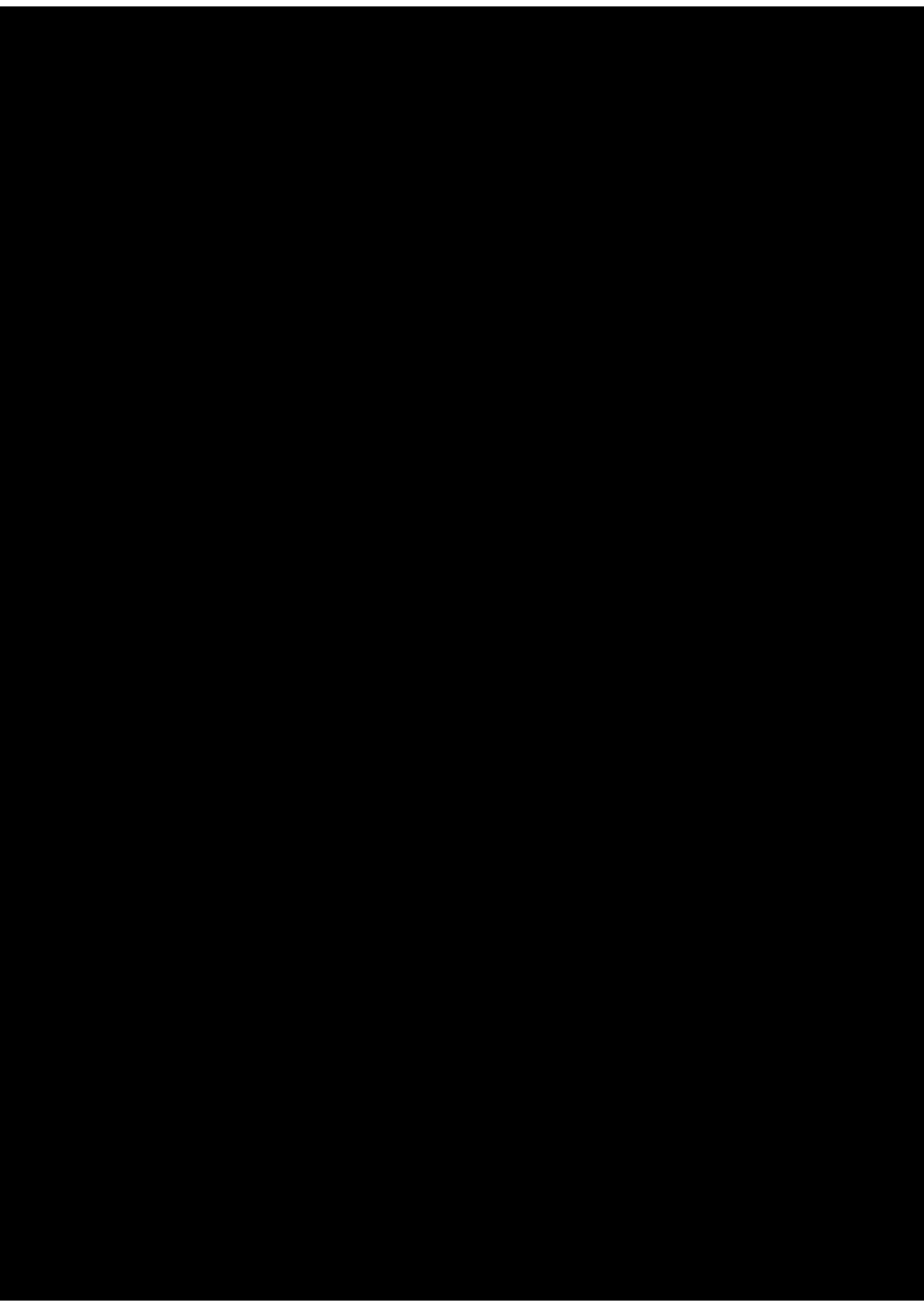


文学女子に

食べられる

3

サークルひまわりのたね R18 オリジナルコミック



文学女子に食べられる③

私は、小さい頃からいつも一人で本を読んで過ごしていました。

人への興味が薄く、
コミユニケーションが苦手だった私は、
小さい頃からいつも一人で読書に
明け暮れていました。

高学年になるにつれて、
学校の図書室にある小説だけでなく、
図書館へ通うようになり、
純文学や古典文学をも読むようになりました。



そこに載っていた恋愛描写は、
それまでに読んだ事のないような、
深く濃密な性描写が沢山書かれており、

今の私には見えてはいけないうような…
知ってはいけないうような…
大人だけの秘密事を
覗き見ている気持ちに感じ…

まだ性について
よく理解していないながらも
目を離せなくなるほど
惹きつけるものがあり…
文学作品にのめり込んで行きました。

まだ誰かに恋愛感情を抱いた事はなく…
体は初潮を迎え…ふいにやってくる体の疼き…

特に恋愛性描写のある作品を読んでいると起こる、
この変な感覚…



これがきつと性欲というもののなのだろうと
臆げながら感じ取っていました…



私が女学生になると
スマートフォンを与えられ、
小説の文章だけでは分からなかった
大人の本当の事が…

インターネットでの

様々な生々しい性的なものに触れ…

一気に理解が進み、

この突然くる体の疼きの意味を理解したのです…



それからというもの、私は周囲の学生や目に入る大人を意識するようになり、よく観察するようになりました。

皆、どんな恋愛をしているのか、性についてどんな事を思いながら生きているのか、とても気になりました。

人に興味の無かった私が人に興味を持つようになり……

学年が進むにつれて、男子からお誘いを受ける事が多くなりました。

でも……それらの人達とは何かが根本的に自分とは違うと感じ、恋愛感情など全く持つ事ができず、相変わらず孤立していました……

そのような孤独な毎日が続き……私の中の疼きと性への好奇心は日に日に高まり……

ついに……

自慰を……



初めて自慰をしてしまった日から、私は完全に性の虜になってしまいました…。

毎晩欠かさず、部屋の鍵をかけ、こっそり自慰するようになってしまいました…。

私の妄想癖と人間観察は
どんどん進んでいきました…。

あの声をかけてきた男子とシたら
どんなSEXになるだろう…

あの先生は
どんなSEXをしているのだろう…

駅で声をかけてきた人について行ったら
どんな事になるのだろう…

などと、
色々な想像を巡らせては
毎晩おかずにしていました…。



でも…
自慰で性欲はある程度解消されても、
私の心は満たされず、
飢えのような感覚に苛まれていきました…。

周囲の人達とは変わらず壁を感じ、
関わりを諦め、
インターネット上でそのような相手を
探そうと試みたこともありましたが、

やはり私が心を許して
身も心も繋がり合えるような人と
出会える事はありませんでした…。

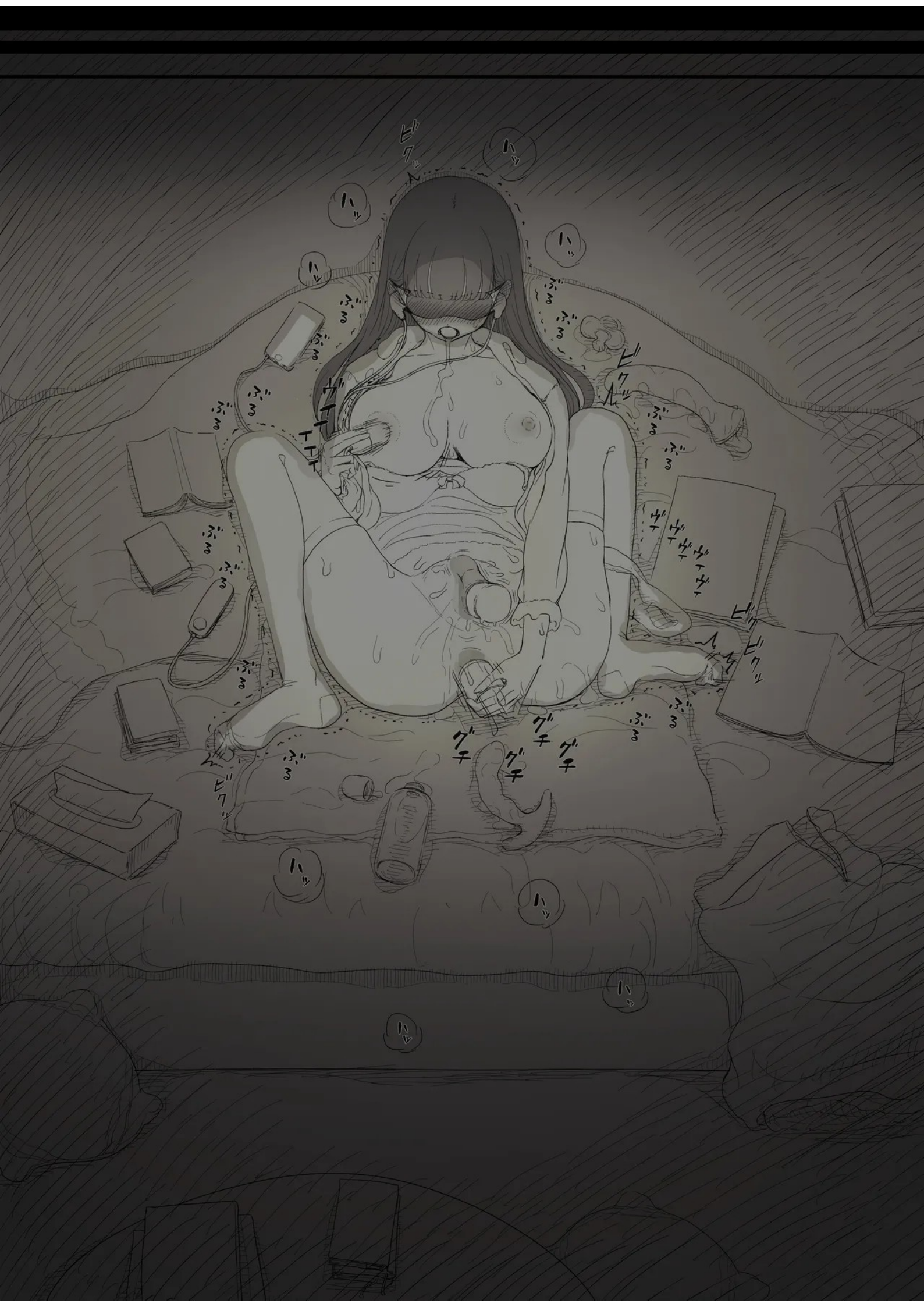
私の孤独感と性欲は
日に日に増していきました…。

身も心も全てが溶け合うような恋愛は
創作の世界にしかないのかと諦め、
より妄想の世界に
のめり込んで行きました…。

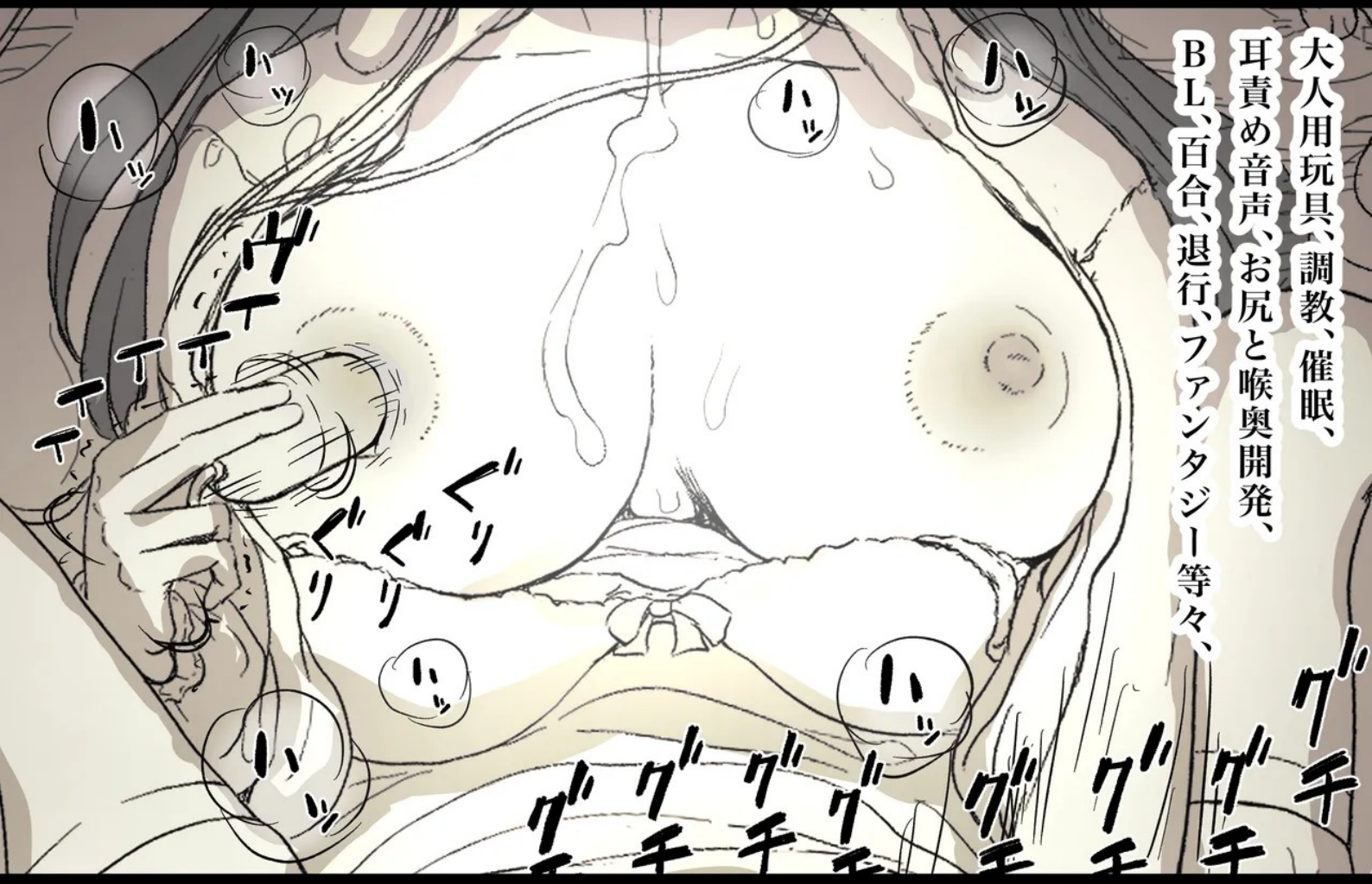
何年も自分の殻に閉じ籠ったまま自慰に明け暮れ、
私の身体はすっかり成長しました。

その頃には、小説だけでなく、
様々な創作物に深く影響を受け、妄想と自慰を繰り返し…

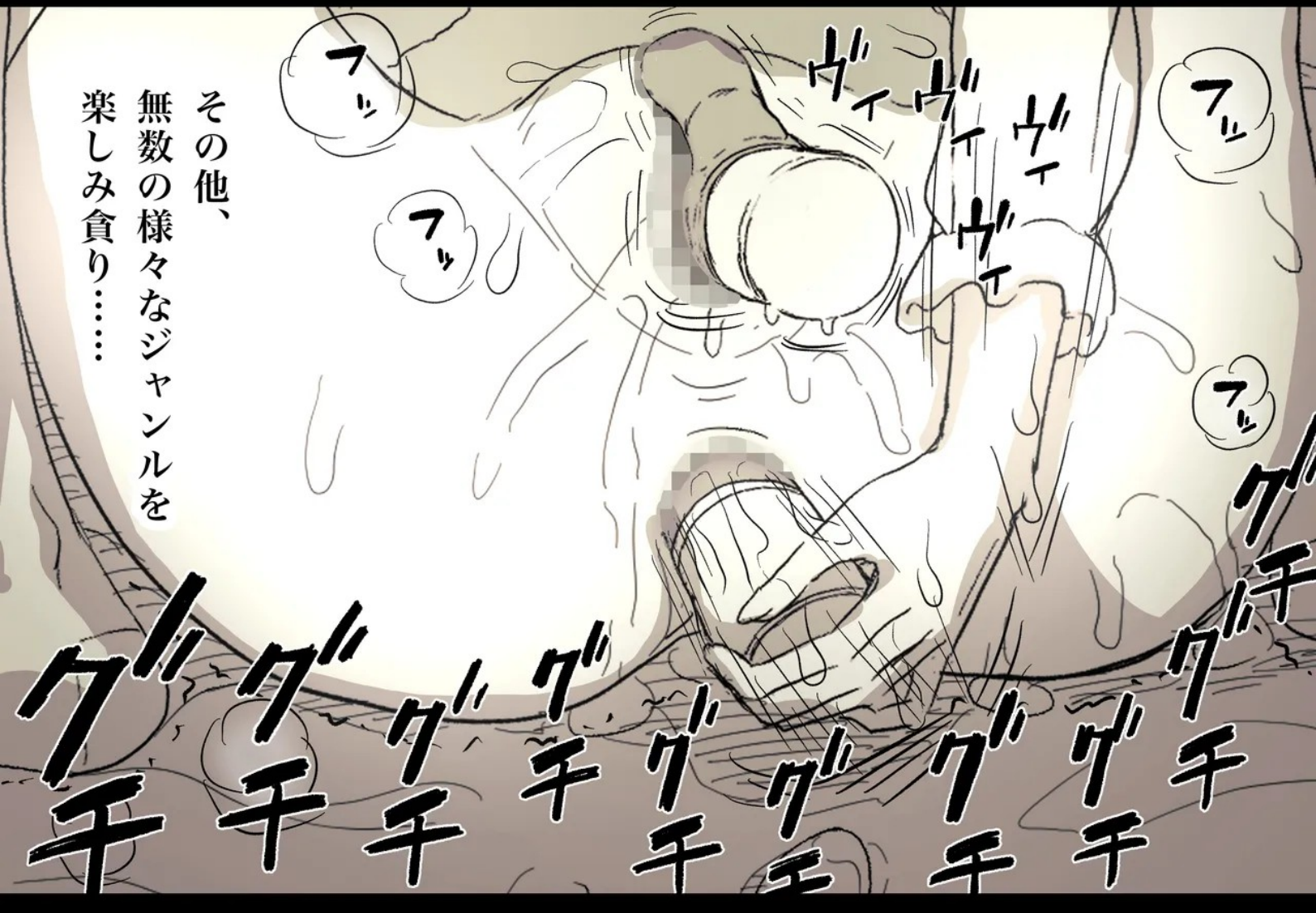
私の心身はもう………

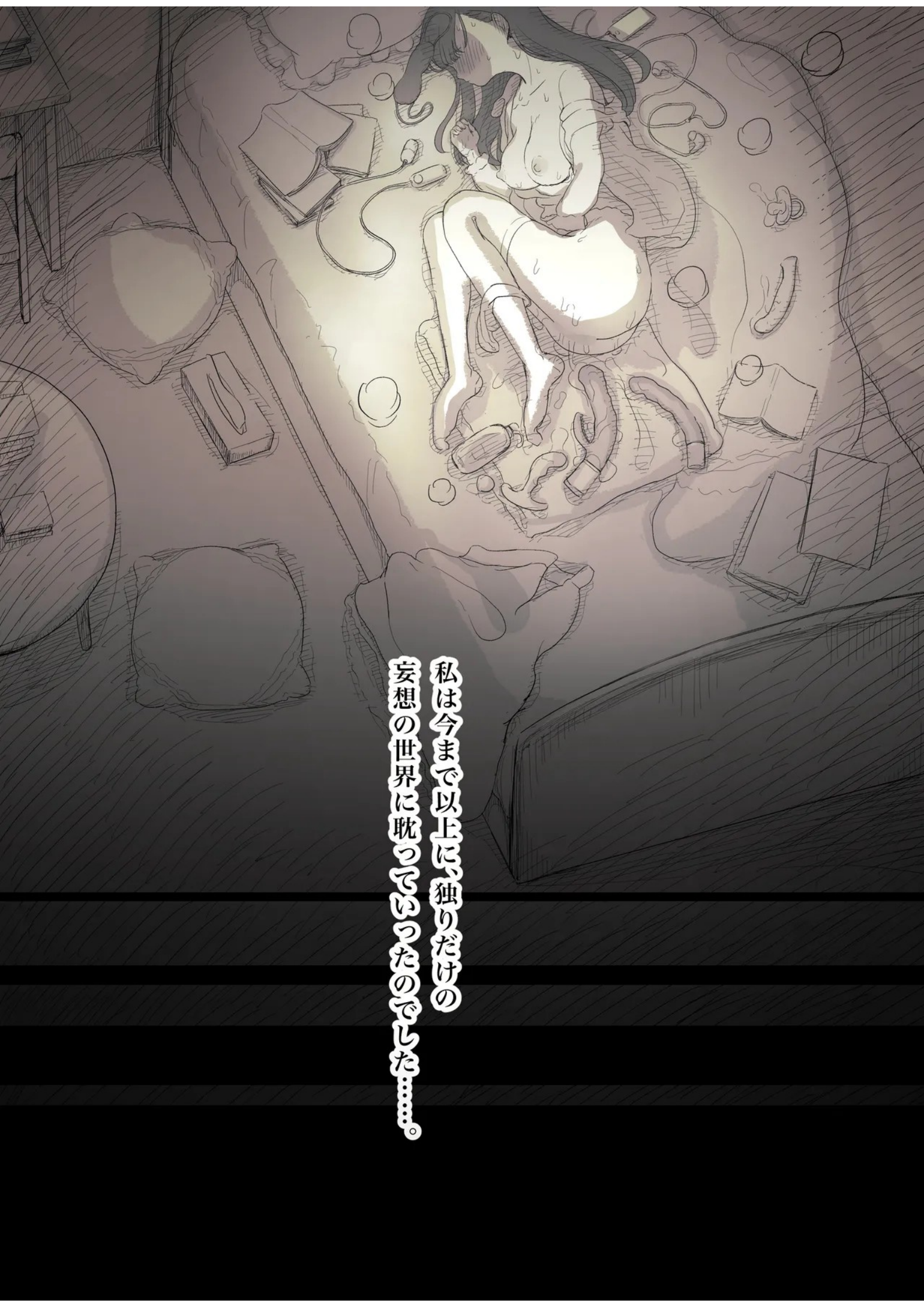


大人用玩具、調教、催眠、
耳責め音声、お尻と喉奥開発、
BL、百合、退行、ファンタジー等々、



その他、
無数の様々なジャンルを
楽しみ貪り……





私は今まで以上に、独りだけの
妄想の世界に耽ってゐたのでした……。

そうして人との心の交わりをすっかり諦め、

自分だけの世界に閉じ籠っていた頃…

私は大学生になり………

私は、文学サークルに入り、「彼」と出会ってしまったのです……

いつも私と同じサークル室で独り寂しそうに本を読み続けていた先輩……

私だけの先輩と……。

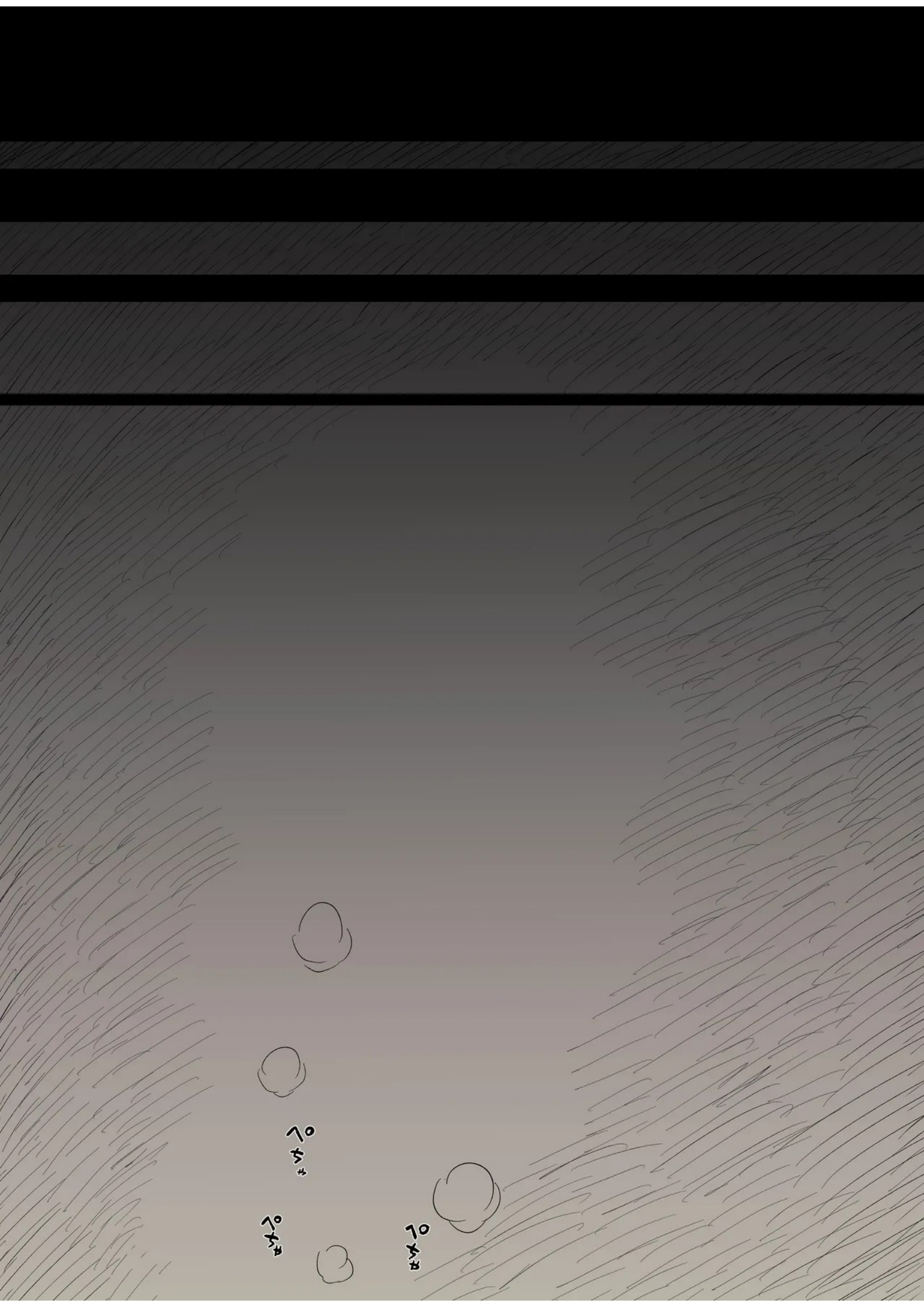


私と、同じにおいのする.....





そして今日も……
彼と……



인사*

인사



인사





今日も私は…大好きな先輩の体を…

これから私に食べられる事に期待し
火照っている可愛らしい体に貪り付き…

れえ

指も…足も…お腹も…脇も…お胸も…首筋も…耳も…
上から下まで全身を舐め味わいました。

はあ♡

ひそ

おいしい…♡♡ひそ

ひそ

先輩の味…

ひそ

手も足もお腹も
お胸も脇もお耳も
全部おいしい…♡

ひそ

でも、先輩の一番舐めて欲しい

『あそこ』は、まだです。

準備、してからですよ♡

ひそ

ひそ

ひそ



今日もまた…
今までよりも、
もっと、
もくもくと、

私と一つになって
気持ち良くなれる事…
してあげますからねえ…

先輩自身も気付いてないかもしれない…
誰にも言えないような…
先輩がして欲しかった事を……



…ぼ……
僕も……



先輩…
週に一度だけの…
この時間……
私…とっても
幸せなんです…
本当に幸せで…
幸せで……



嬉しい……
先輩のこと…
好きで…
好きすぎて…
幸せすぎて…
こんな……
ううう…
僕も……
僕も……

先輩の期待と不安の入り混じったような
可愛い可愛いか細い返事を聴き、私は服を脱ぎ……

今着ていた、私の体温が残っているそれを先輩に……

ドキ
ドキ

ドキ

ドキ

ズキ

ズキ

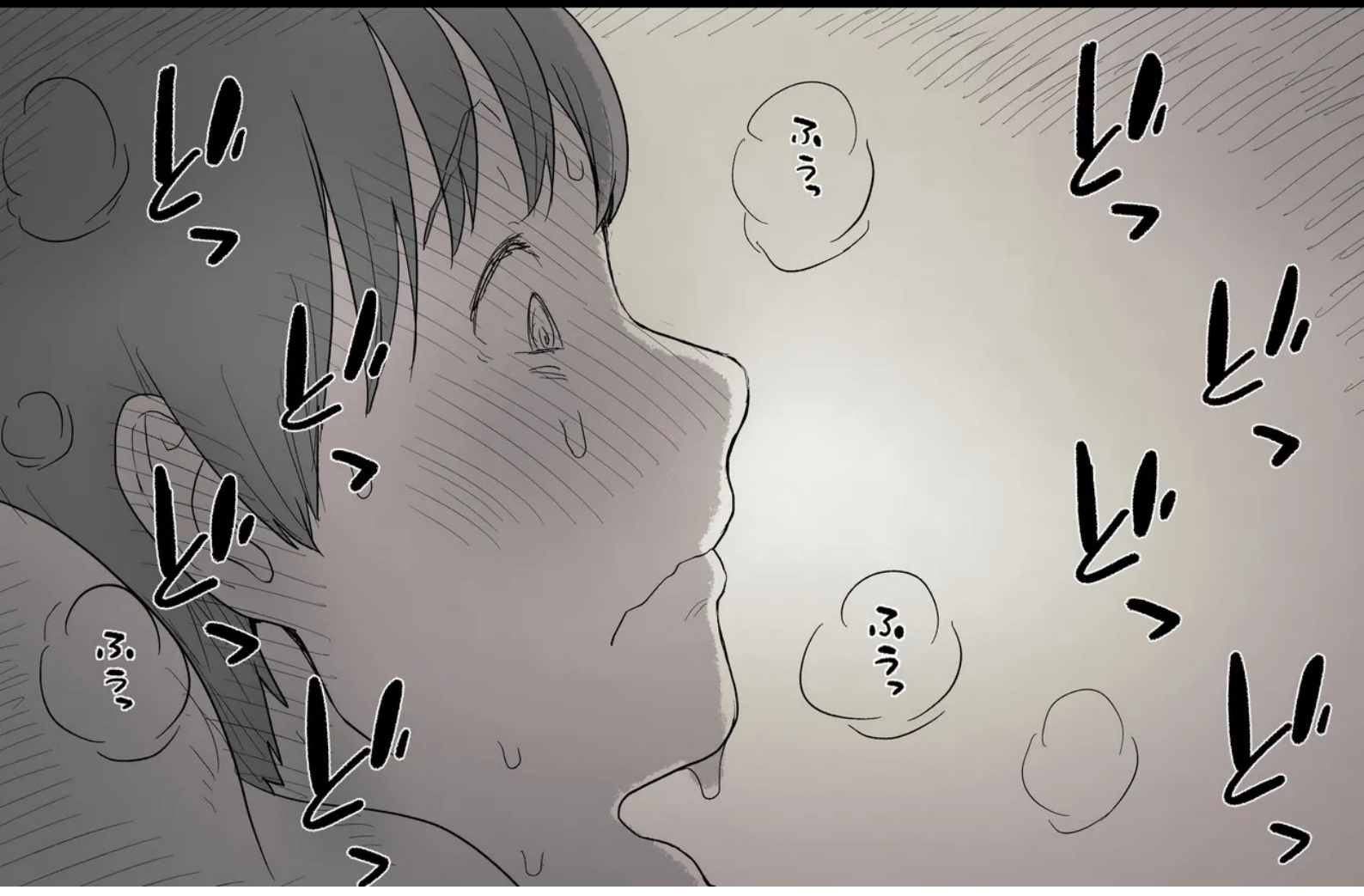
ズキ

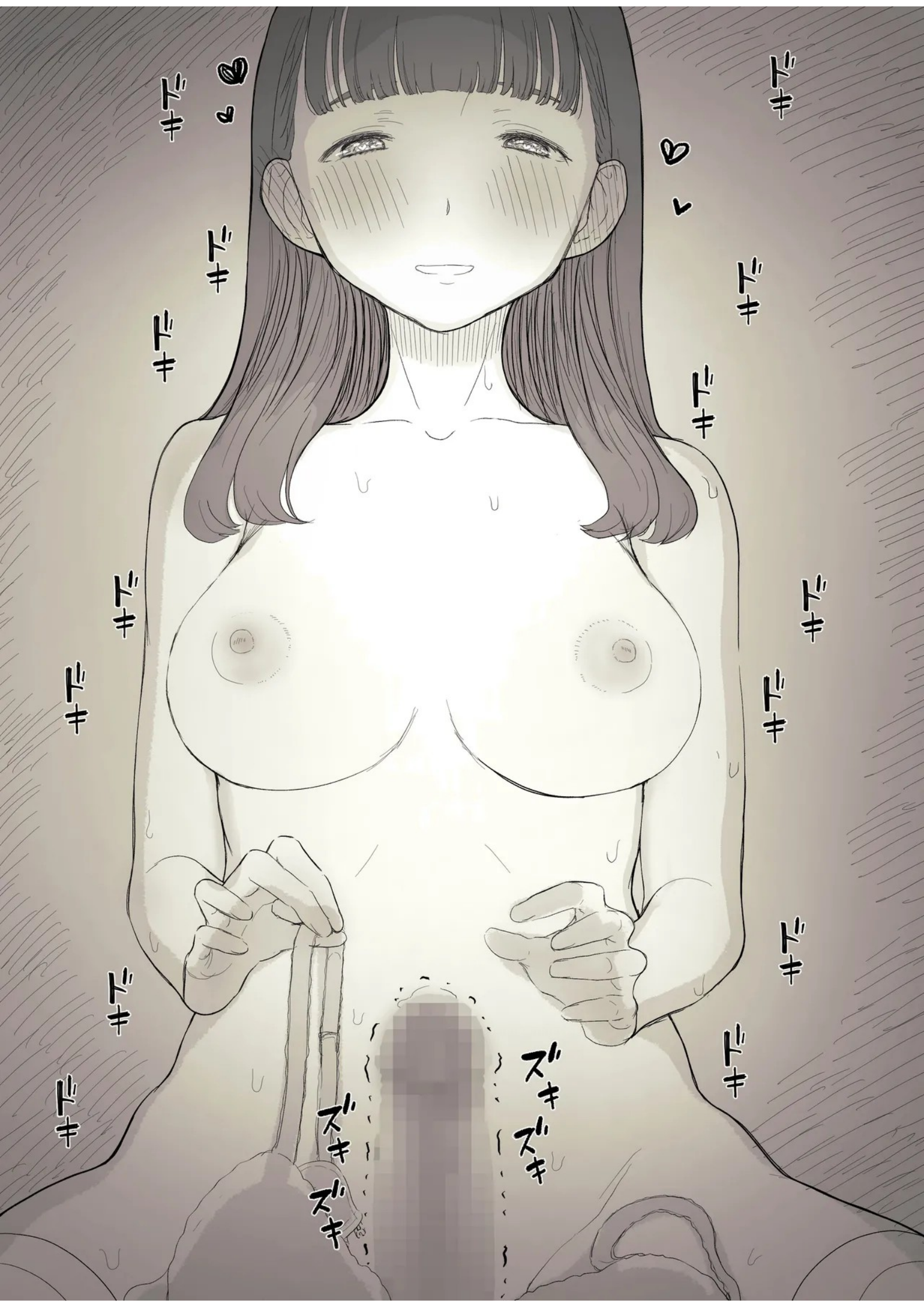
ズキ

ふわ
り……

びく
くく







#7

ズキ

#7

ズキ

#7

#7

#7

#7

#7

#7

#7

#7

#7

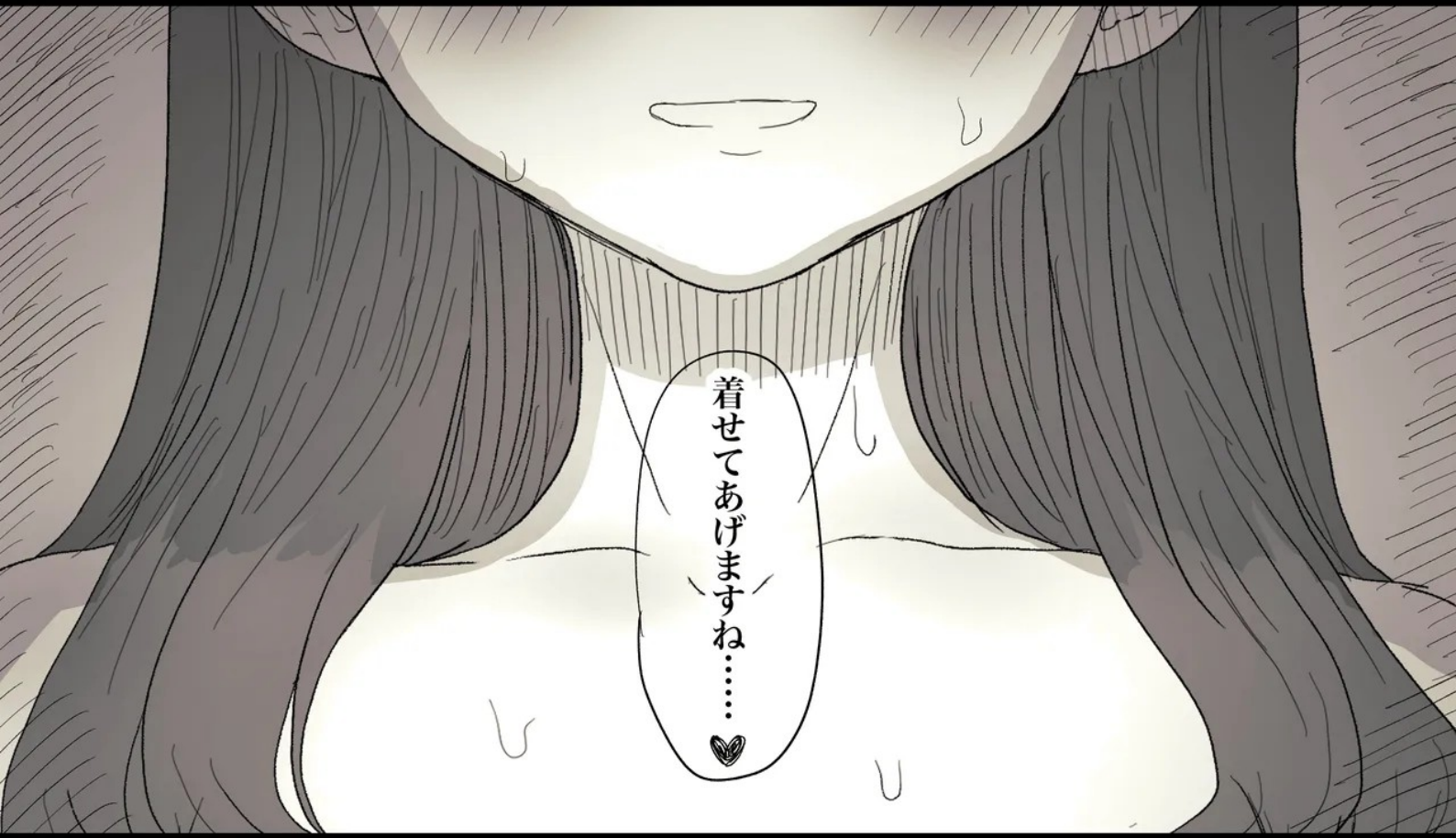
#7

#7

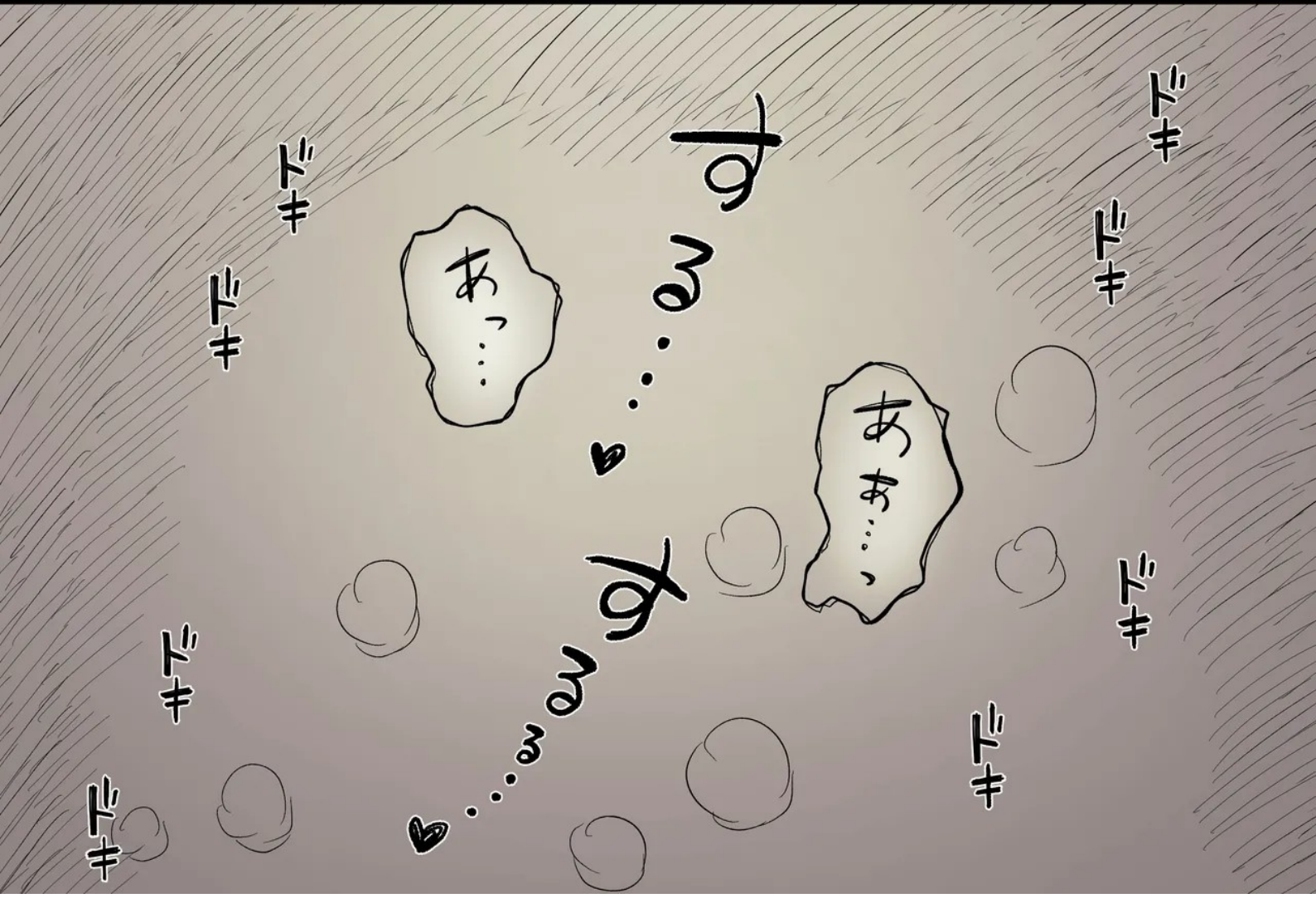
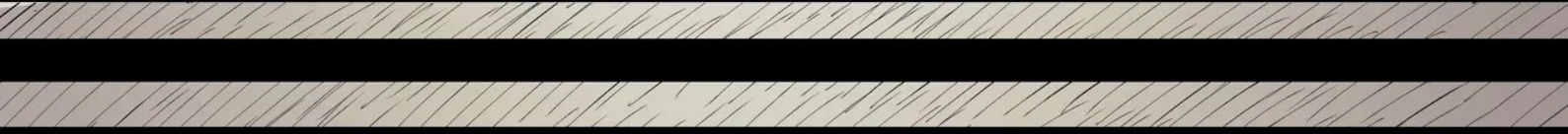
#7

ズキ
ズキ

ズキ
ズキ



着せてあげますね……♡

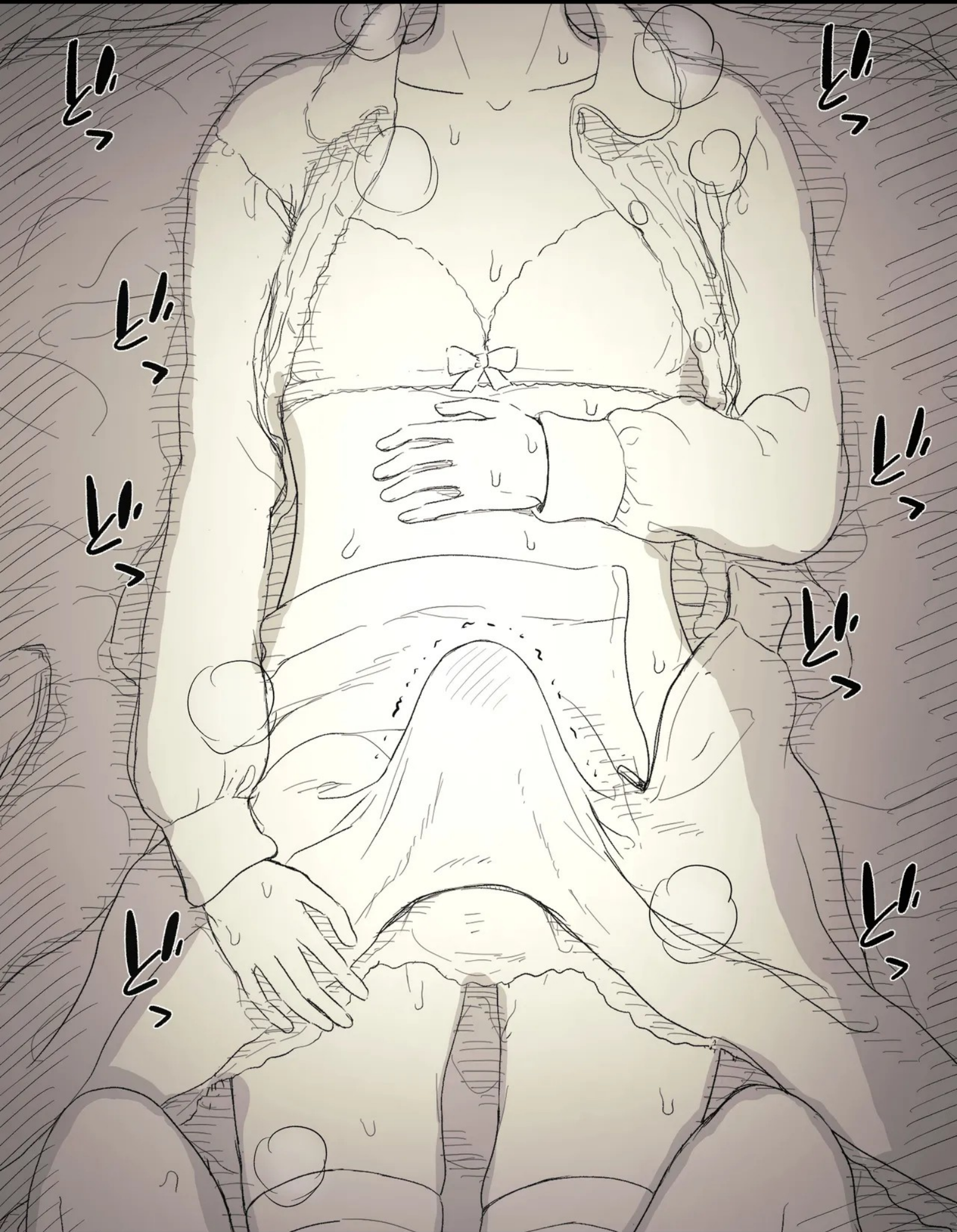


For no... For no...

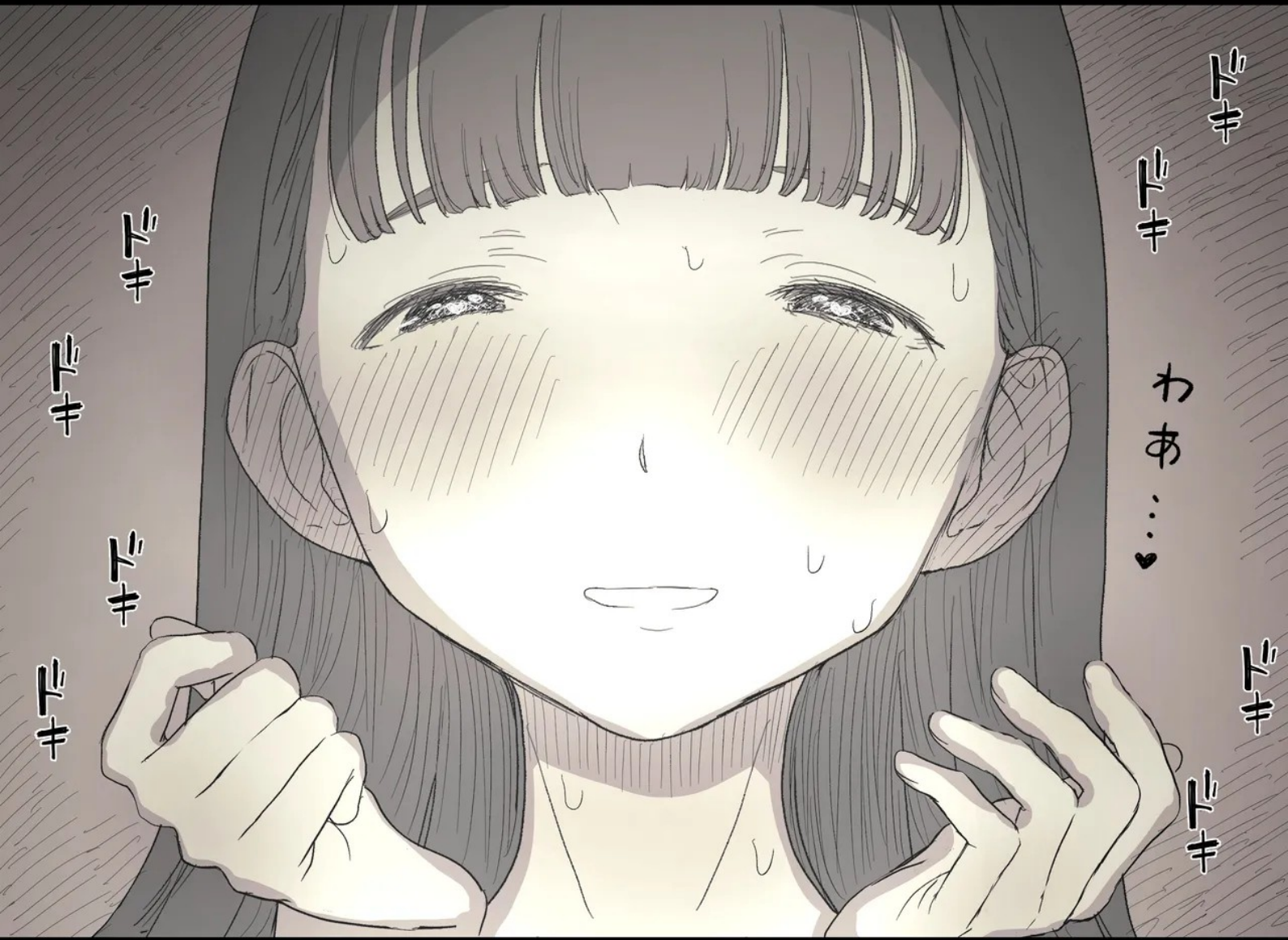
あ...

あぁ...

シタシタ







ドキ

ドキ

わあ…♡

ドキ

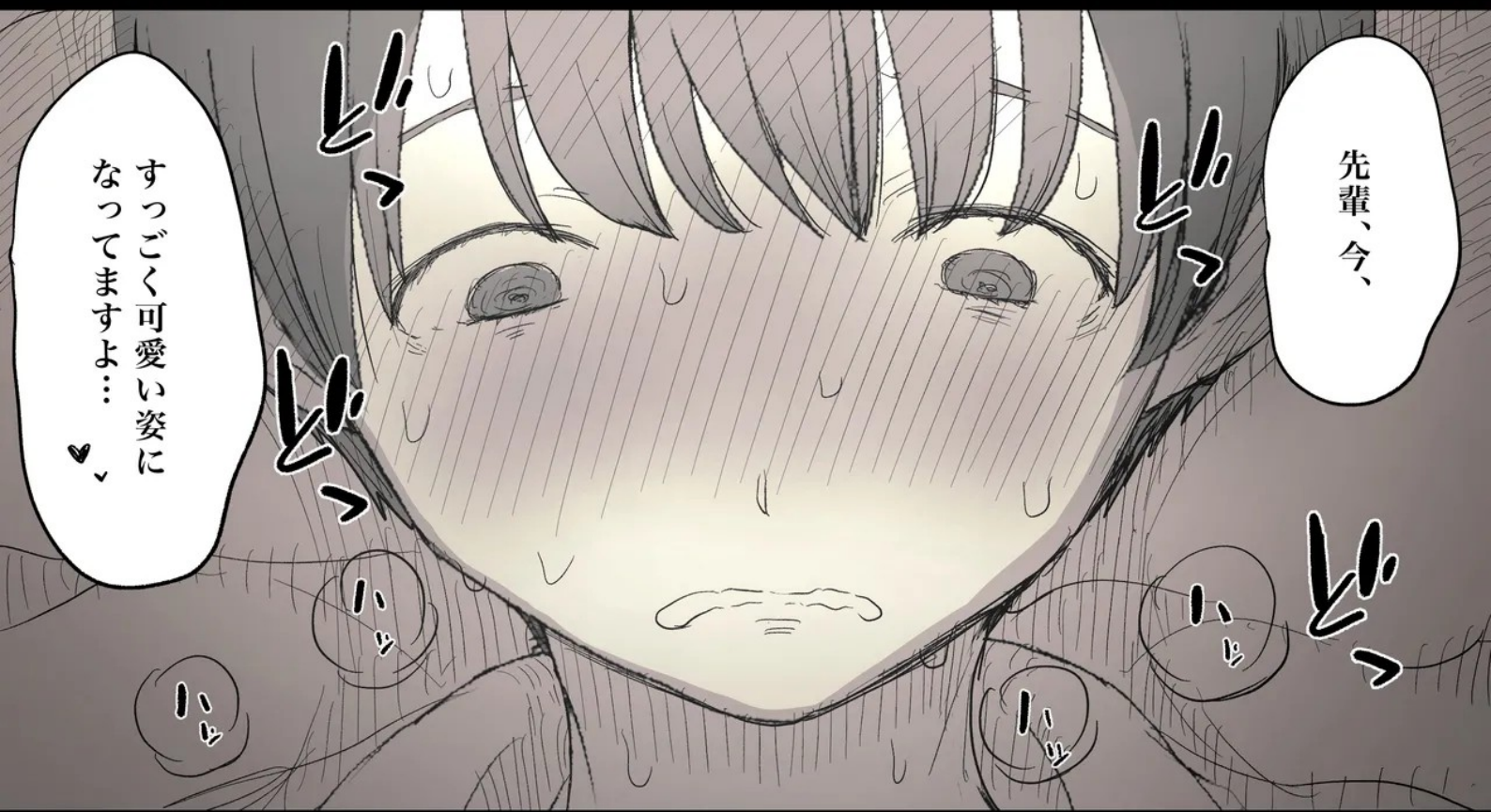
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



先輩、今、

すっごく可愛い姿に
なってますよ…♡

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



はあ…

先輩の匂い…

体温が残ってる…

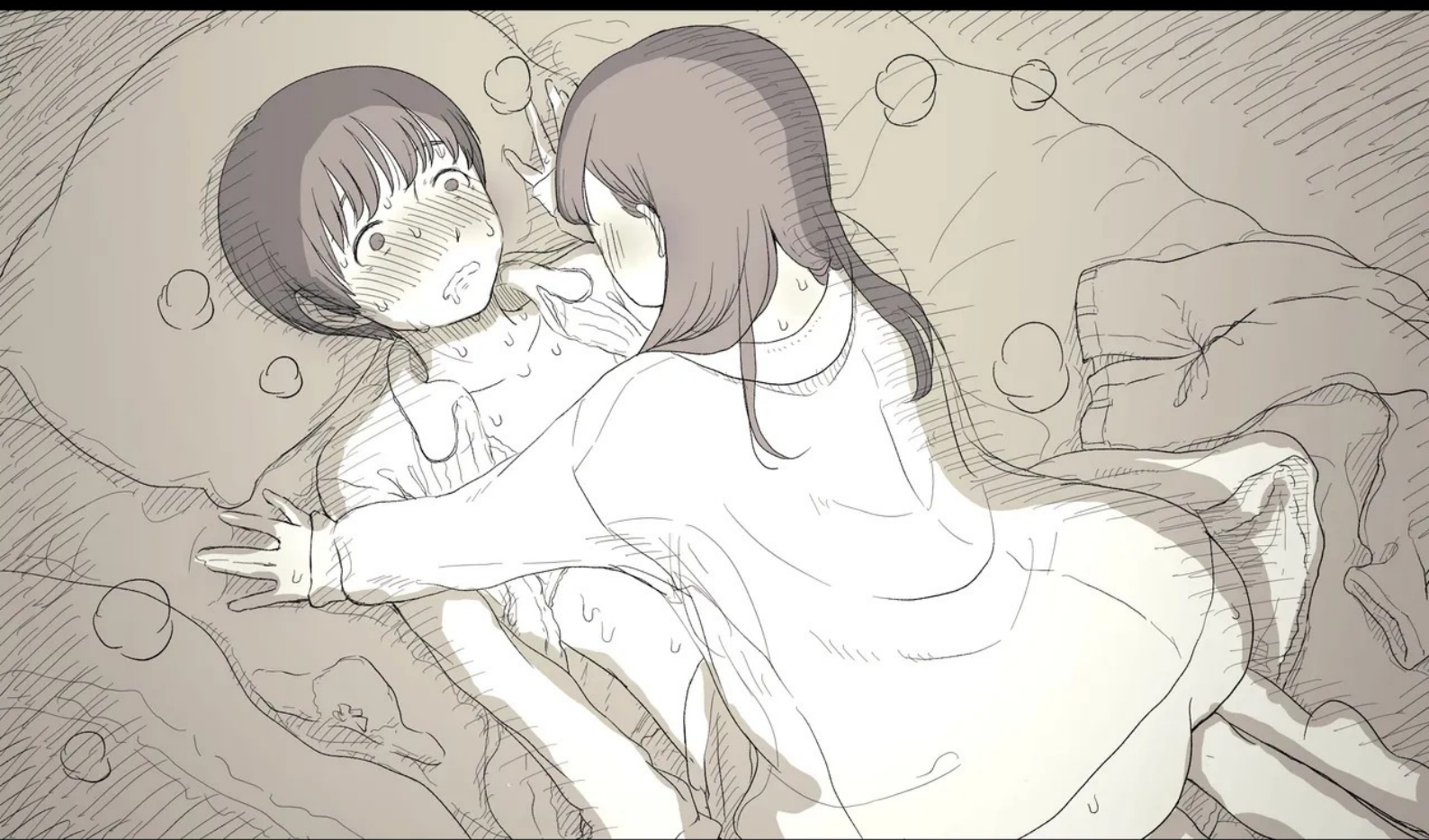
ん

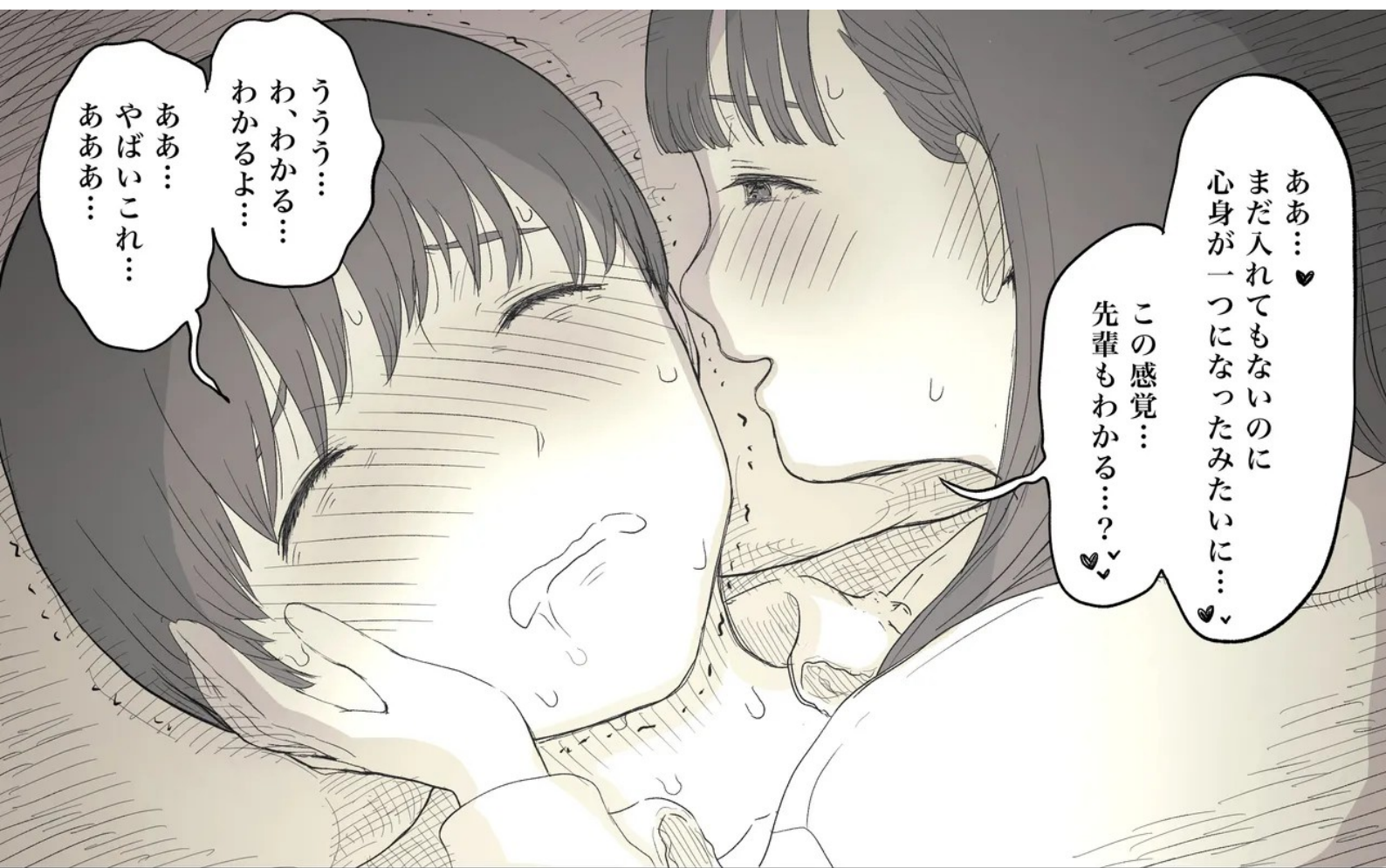
ん

私も、

先輩のお洋服、
着ますね…

fo me no...





ああ：♡
まだ入れてもないのに
心身が一つになったみたいにな…♡

この感覚…
先輩もわかる…？♡

ううう…
わ、わかる…
わかるよ…

ああ…
やばいこれ…
あああ…



先輩も私と同じ
変態さんだから…
こんなに…♡

ああ可愛い…
好き…♡

ちゅうっ♡

んむっ…



私の服、
女の子の服
着せられて、

興奮しちゃっ
てるんですね…



ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハハハハ

ハハ

ハハ

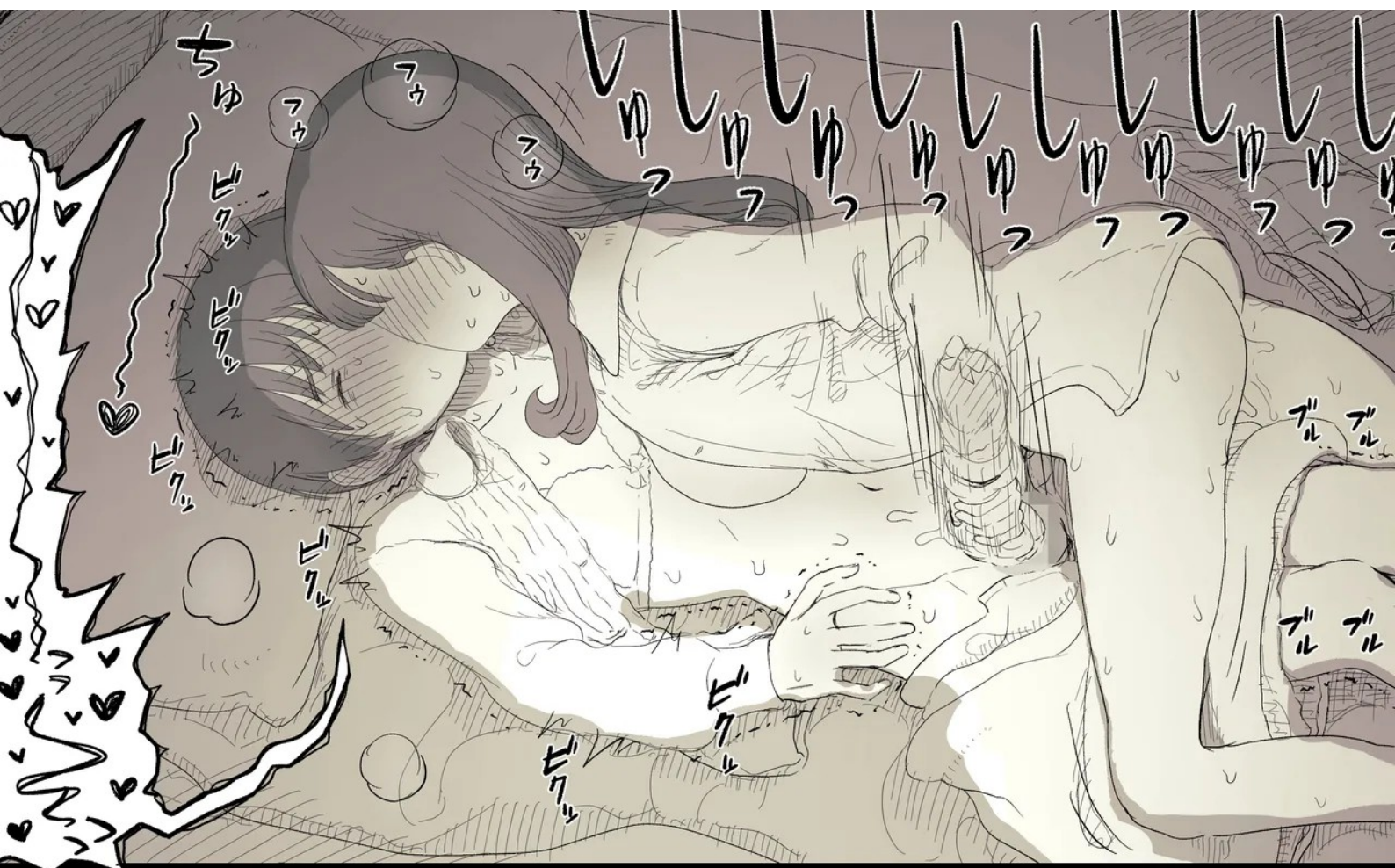
ハハ

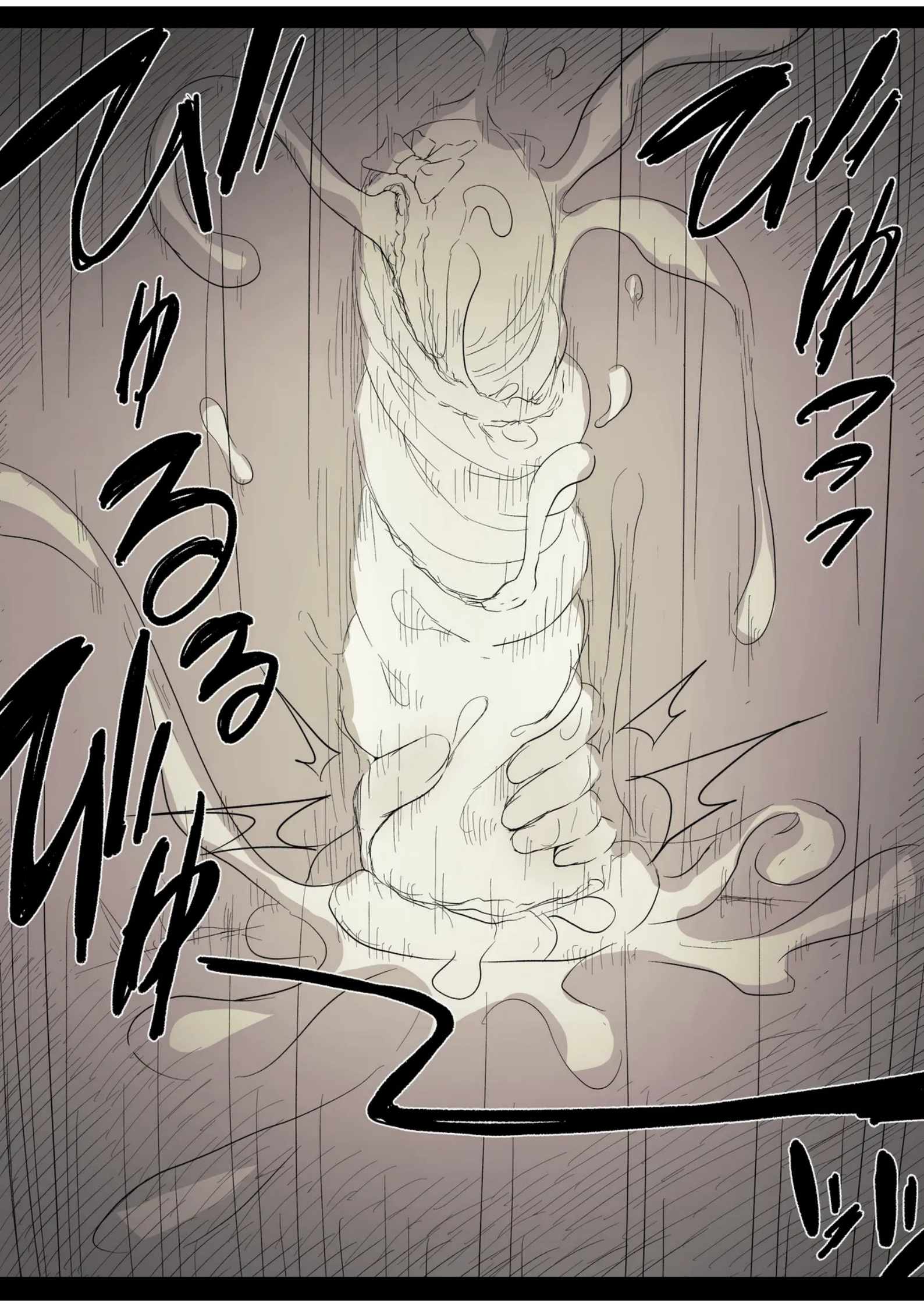
ホッ
ホッ

ホッ

あ

ハハハハハ

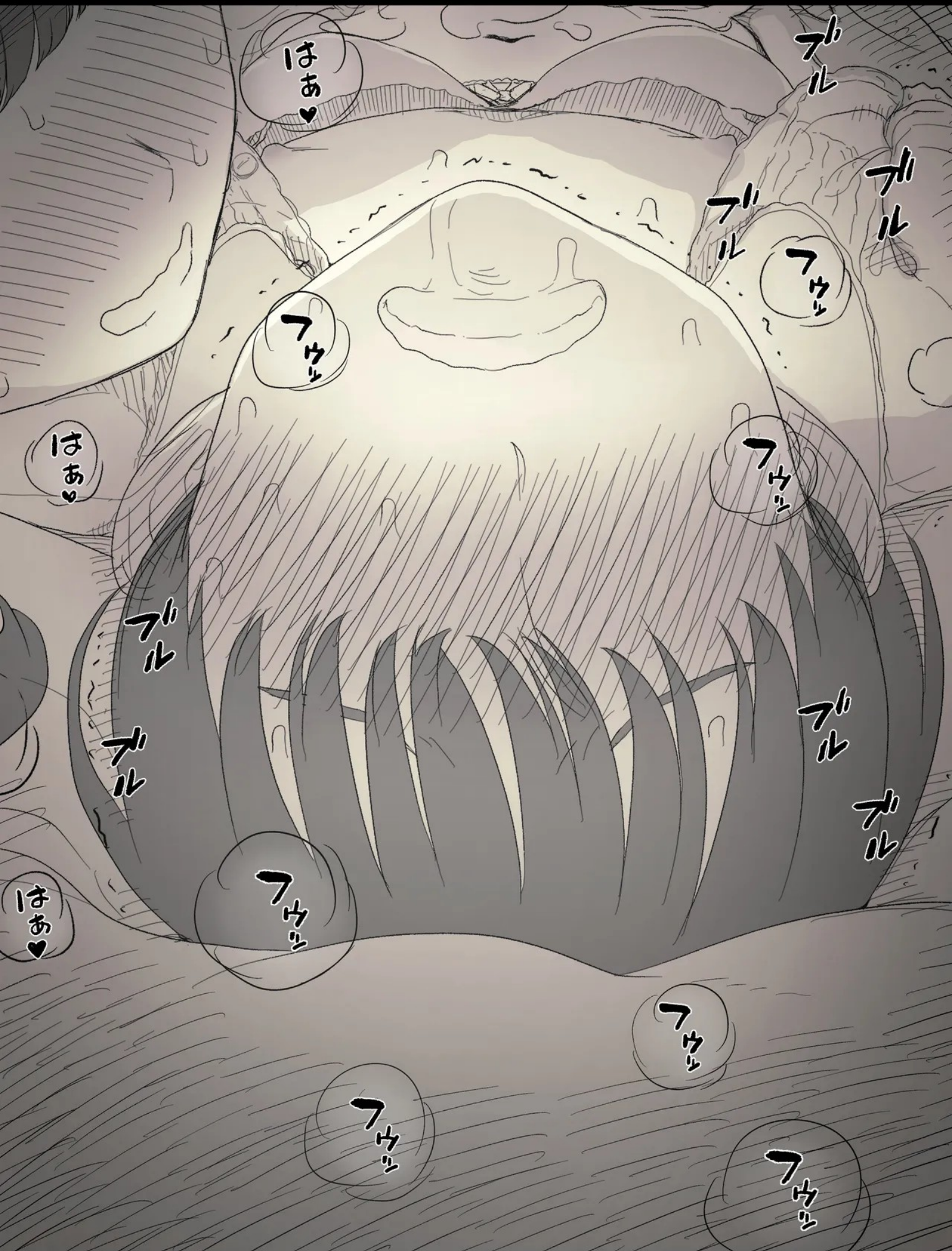




ゆ
る
る

ゆ
る
る

ゆ
る
る



はあ♡

グハッ

グハッ

グハッ

グハッ

グハッ

グハッ

はあ♡

グハッ

グハッ

グハッ

はあ♡

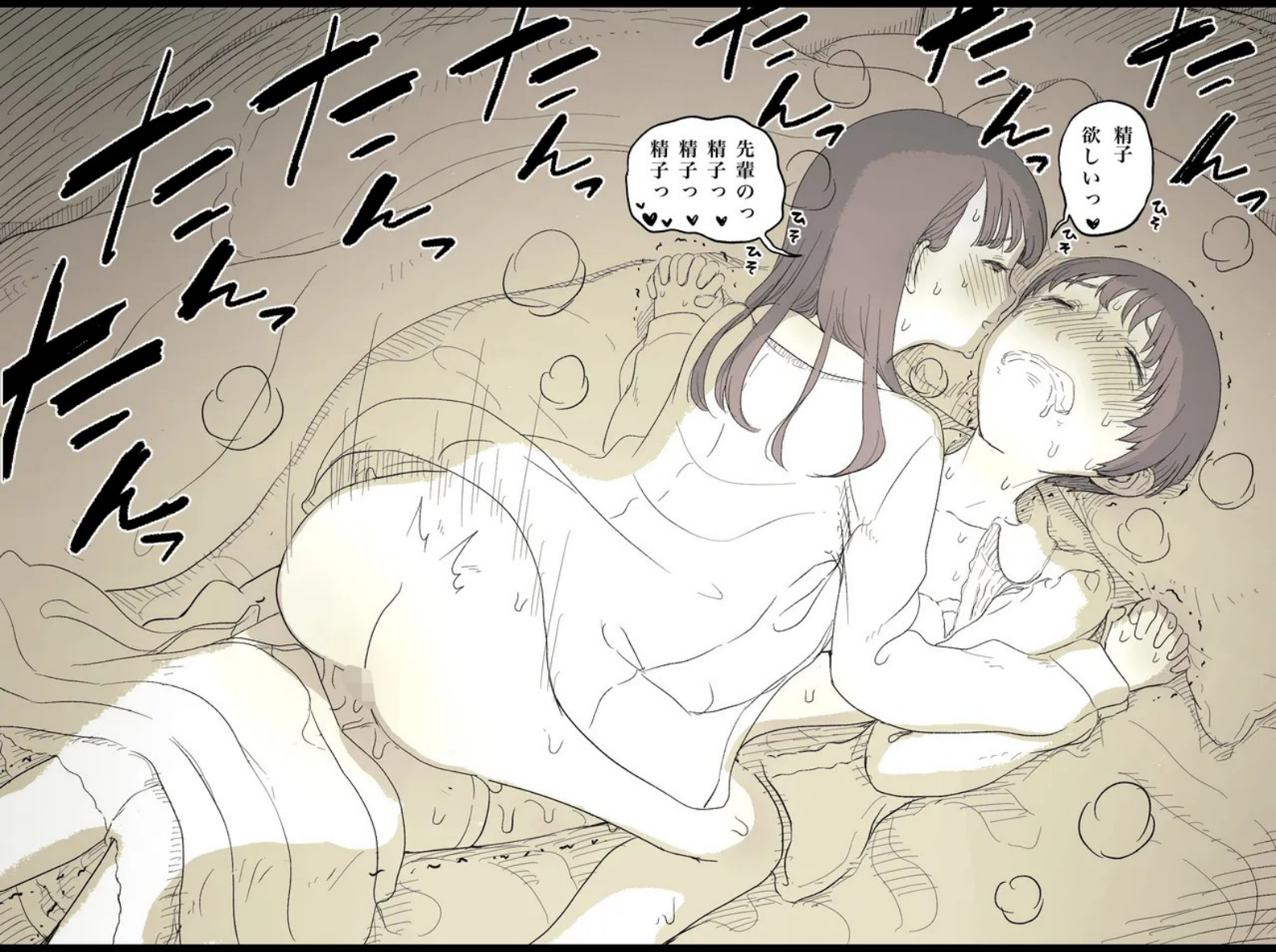
グハッ

グハッ

グハッ

グハッ





精子
欲しいっ♡

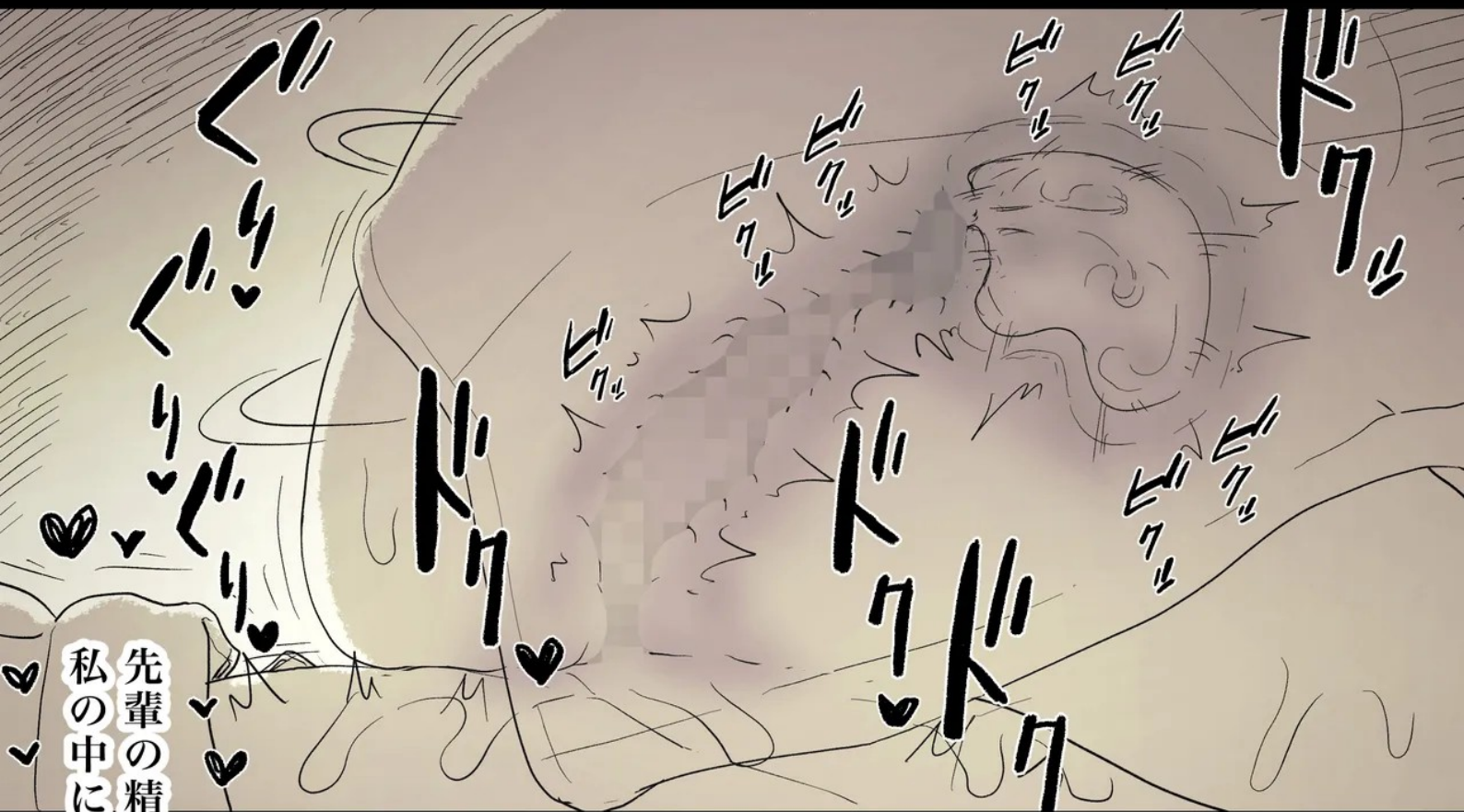
先輩のっ♡
精子っ♡
精子っ♡
精子っ♡



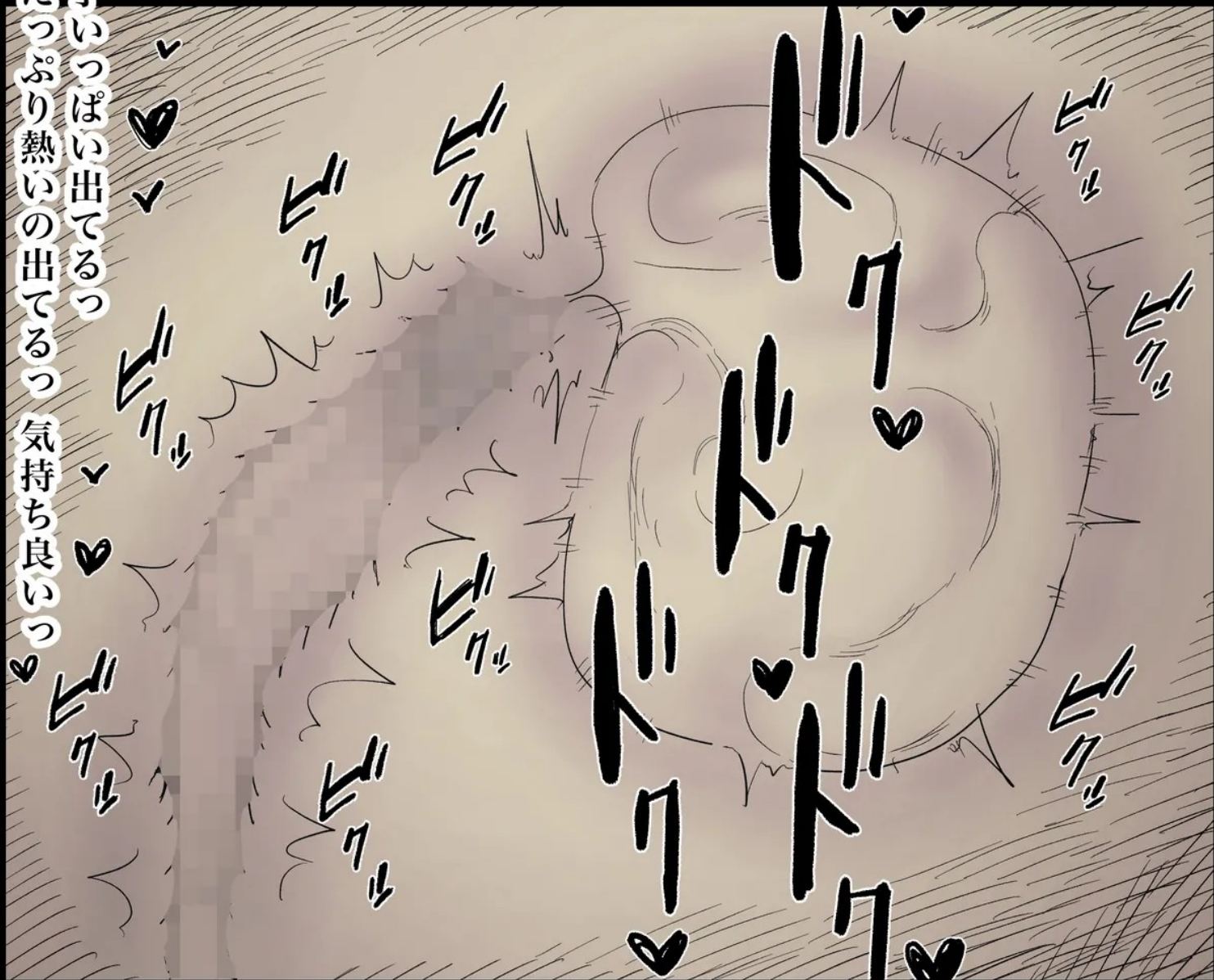
先輩の精子っ♡
中にいっぱい欲しいっ♡

何も考えなくて
良いからっ♡
ただ気持ち良くなって
全部わたしの中に
包まれるように出してっ♡
全部いっぱい
一番奥に出してっ!!

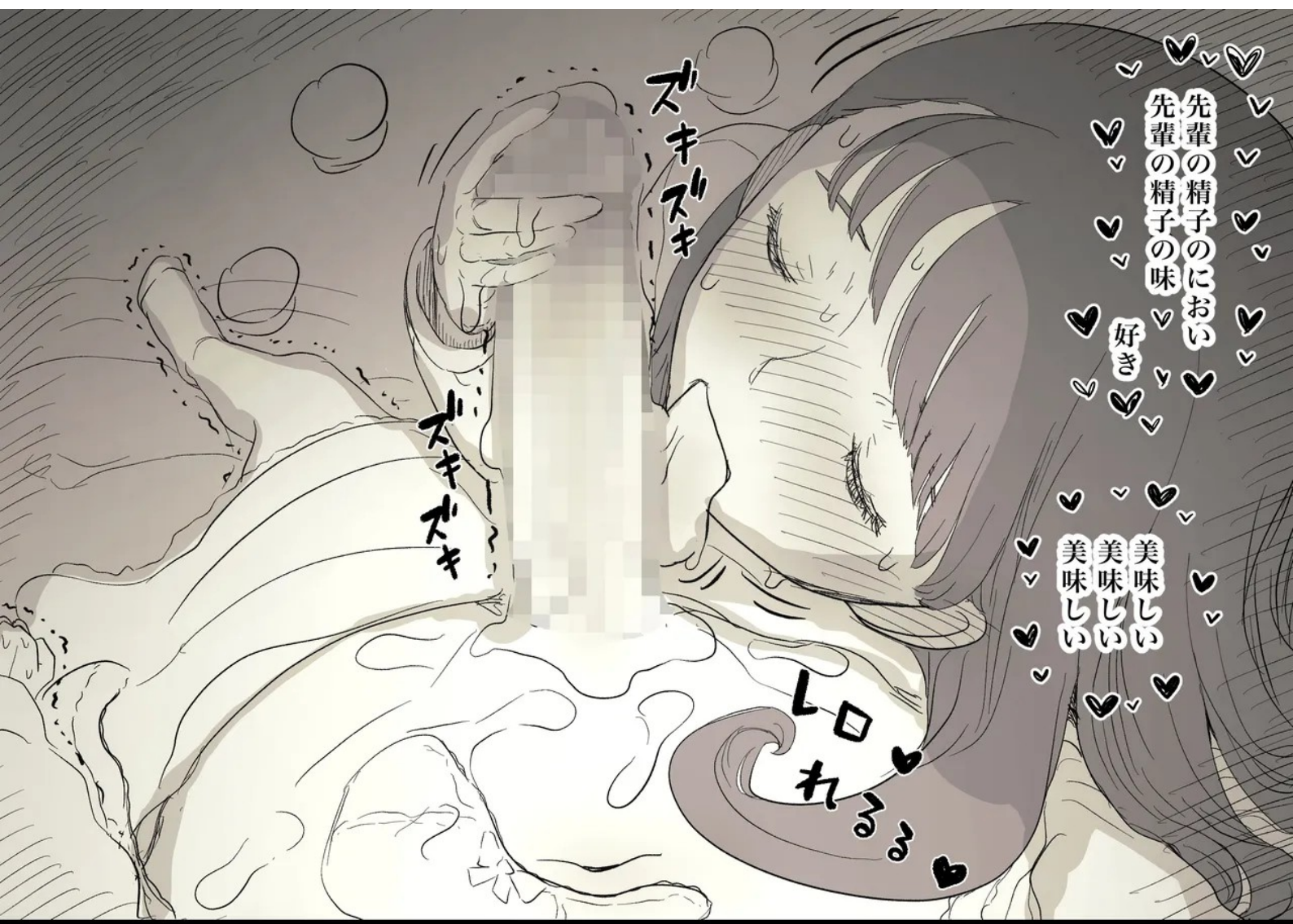
ちゅっ
るるる



先輩の精子いっぱい出てるっ
私の中にとっぷり熱いの出てるっ
気持ち良いっ





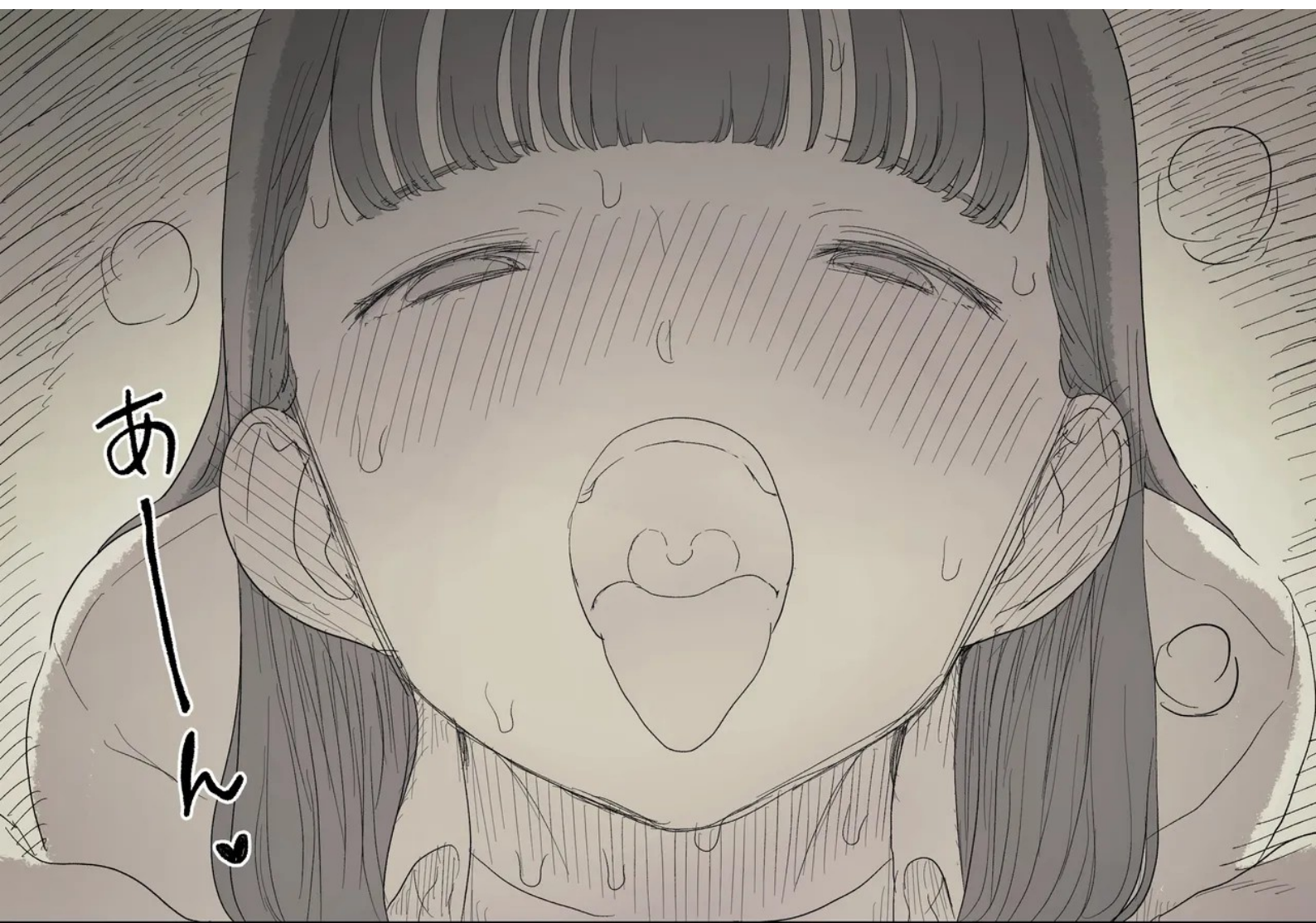


先輩の敏感なお胸と…
先輩が一番して欲しかった、
後ろのおま●こ…

先輩が本当の女の子に
なれるように…

今日も先輩は
2つの女の子の部分だけで
イけるかなあ？





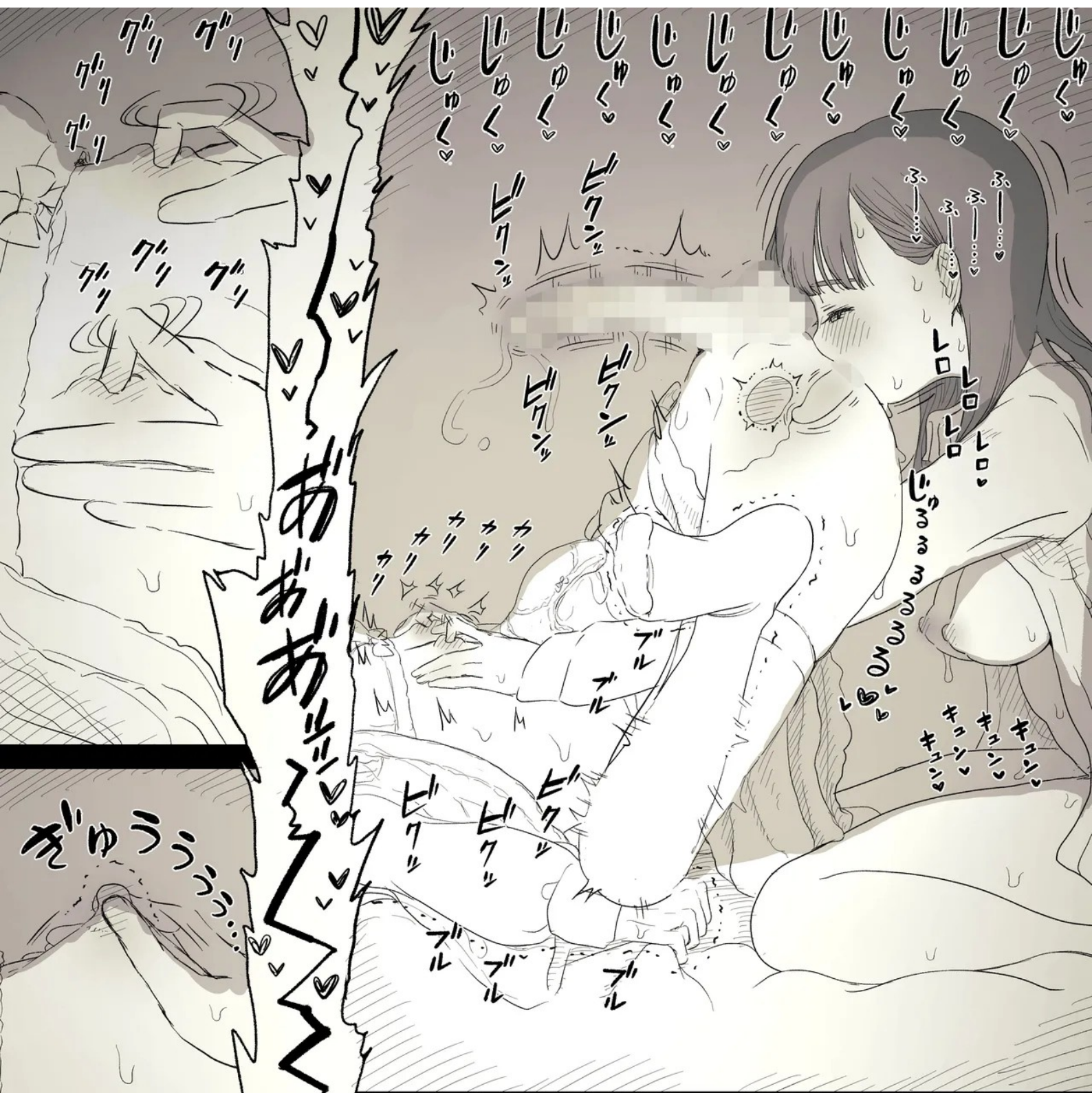
あ
ー
ん
ん



う
ん
ん
ん











はあ

はあ

はあ

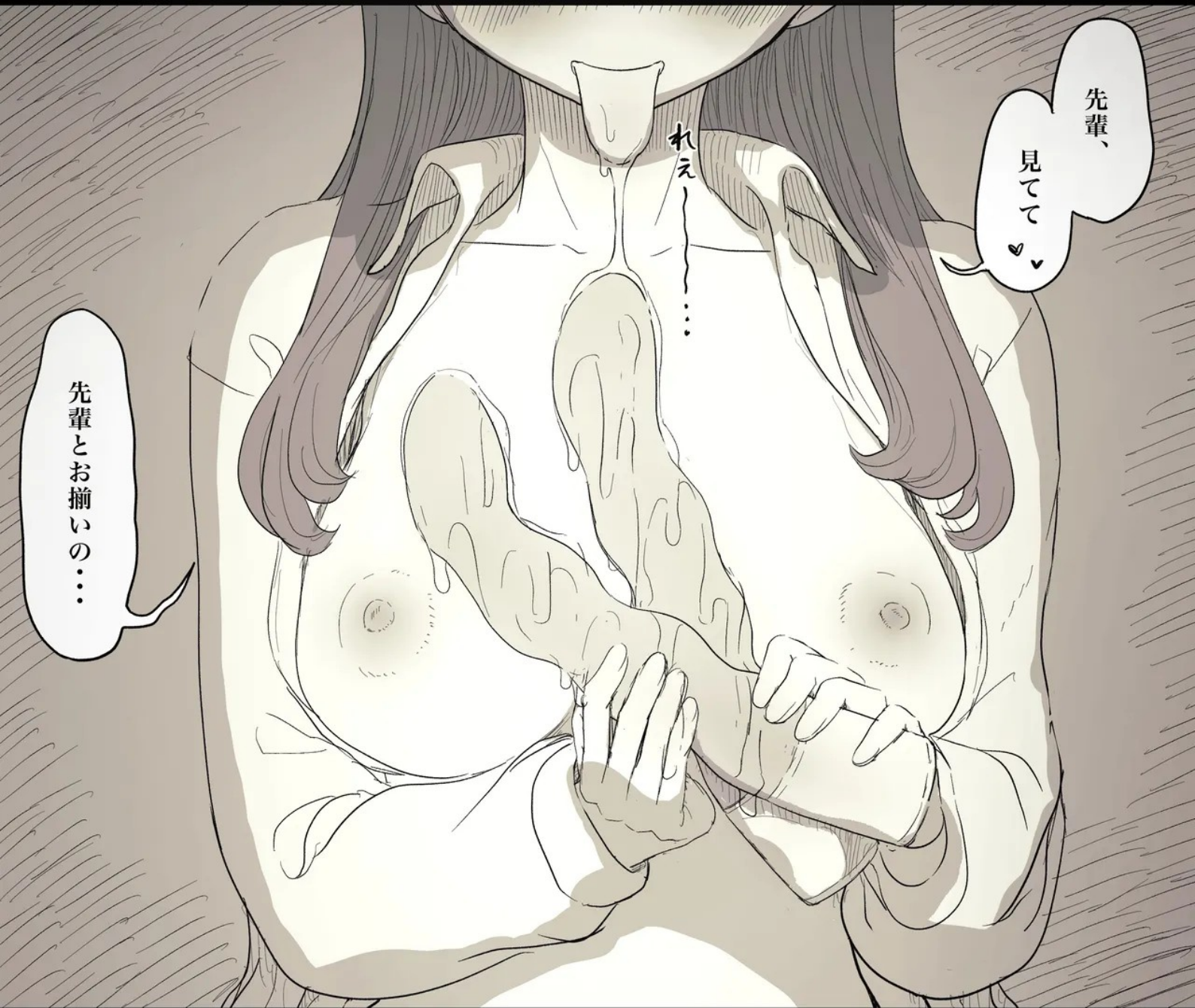
ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

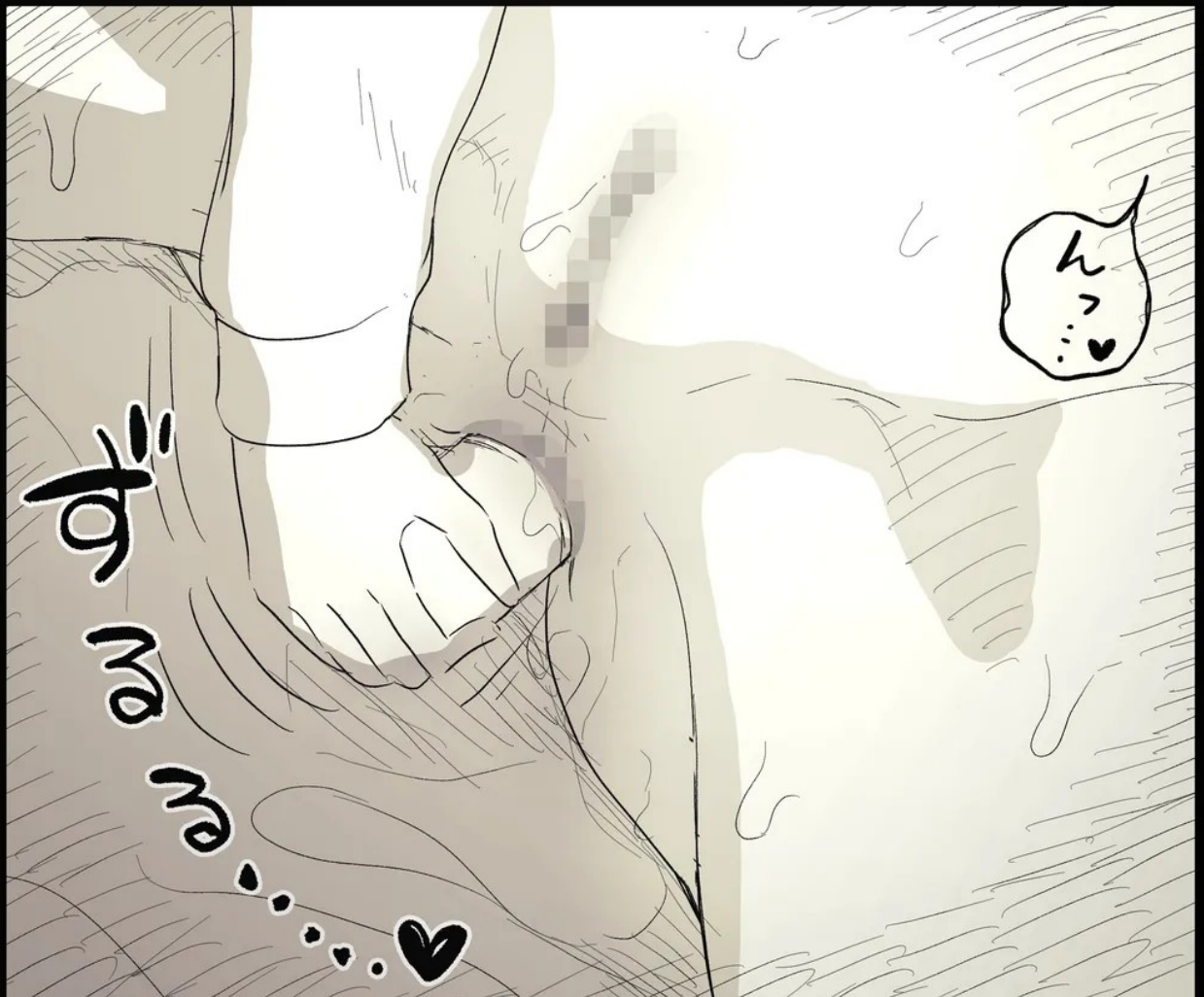




先輩、
見てて♡♡

れえー
……

先輩とお揃いの……





先輩も自分で私と一緒にあわせてお尻の玩具動かして♡

うう…っ
恥ずかしい…
無理…

ううん、無理じゃないでしょう？一緒にしよう？♡

そう上手。ああえっちすごくえっち♡

かわいいっ
かわいいっ
おち●ちんもすっごい反応してる♡



そのまま、一緒に動かし続けて…♡

私がいくまで
ぜったい
止めちゃダメです。♡

わかりましたか？♡

うう…
は、はい…

かわいい♡
素直でいい子♡



ああ可愛いっ可愛いっ
先輩可愛いっ♡♡

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

ううっ
うううううううううう

だ、だめっ
またイキそっ
イっちやうっ！

はぁ

私も…っ
イキそっ…っ！

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

グクグク

グク

グク

グク

グク

クク

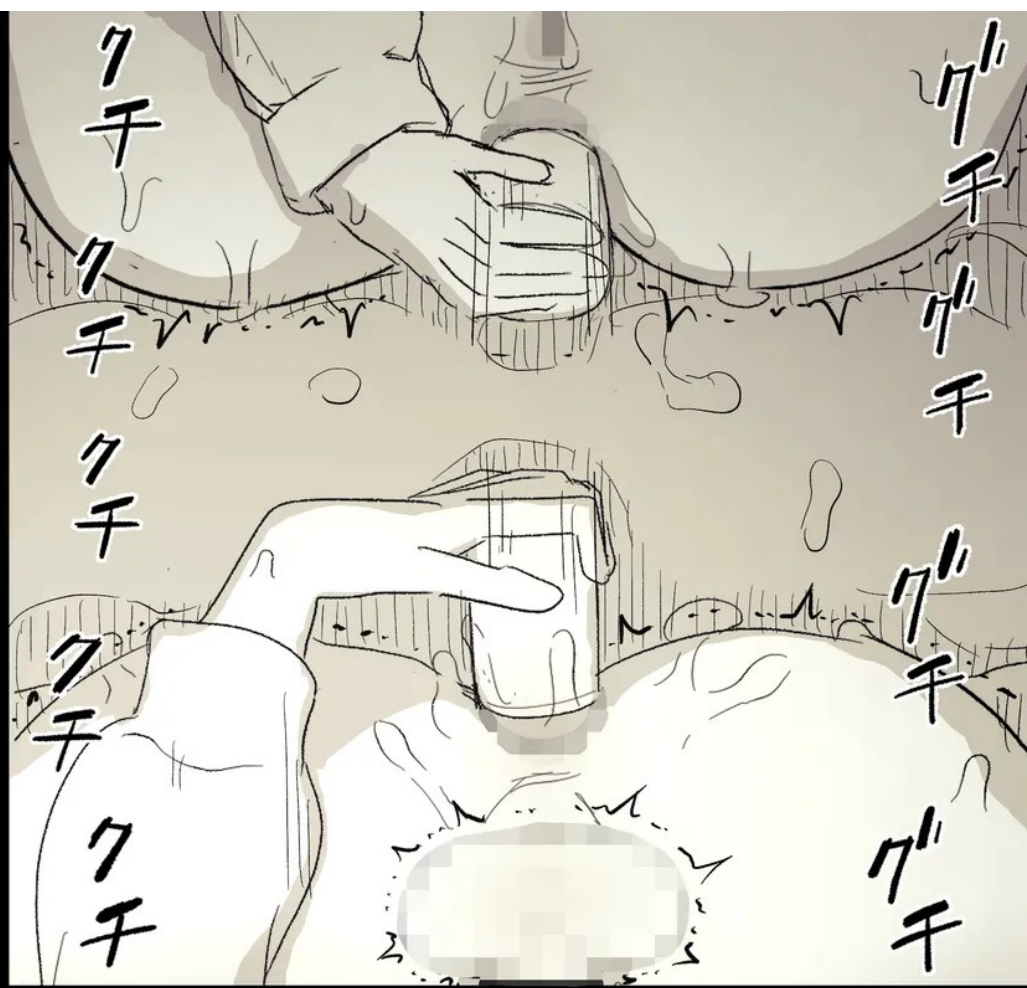
クク

クク

クク

クク





私は、自分のお尻での自慰を

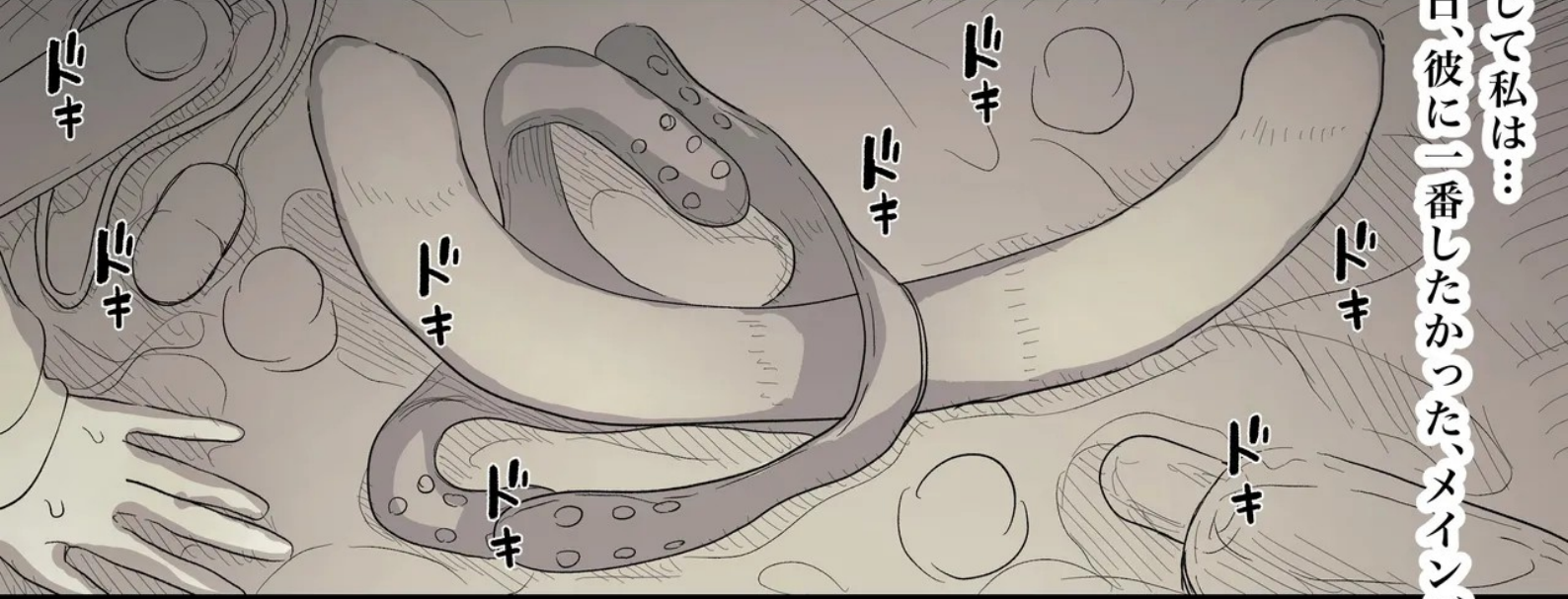
先輩に見せながら、見られながら…

先輩も私の姿を見ながら、見られながら、

興奮の絶頂に達し射精したのを見て、

私も最高潮に興奮し、イってしまいました…。

そして私は…
今日、彼に一番したかった、メインディッシュを………



あ、あ、あ、
それ……それは……



ずずず……

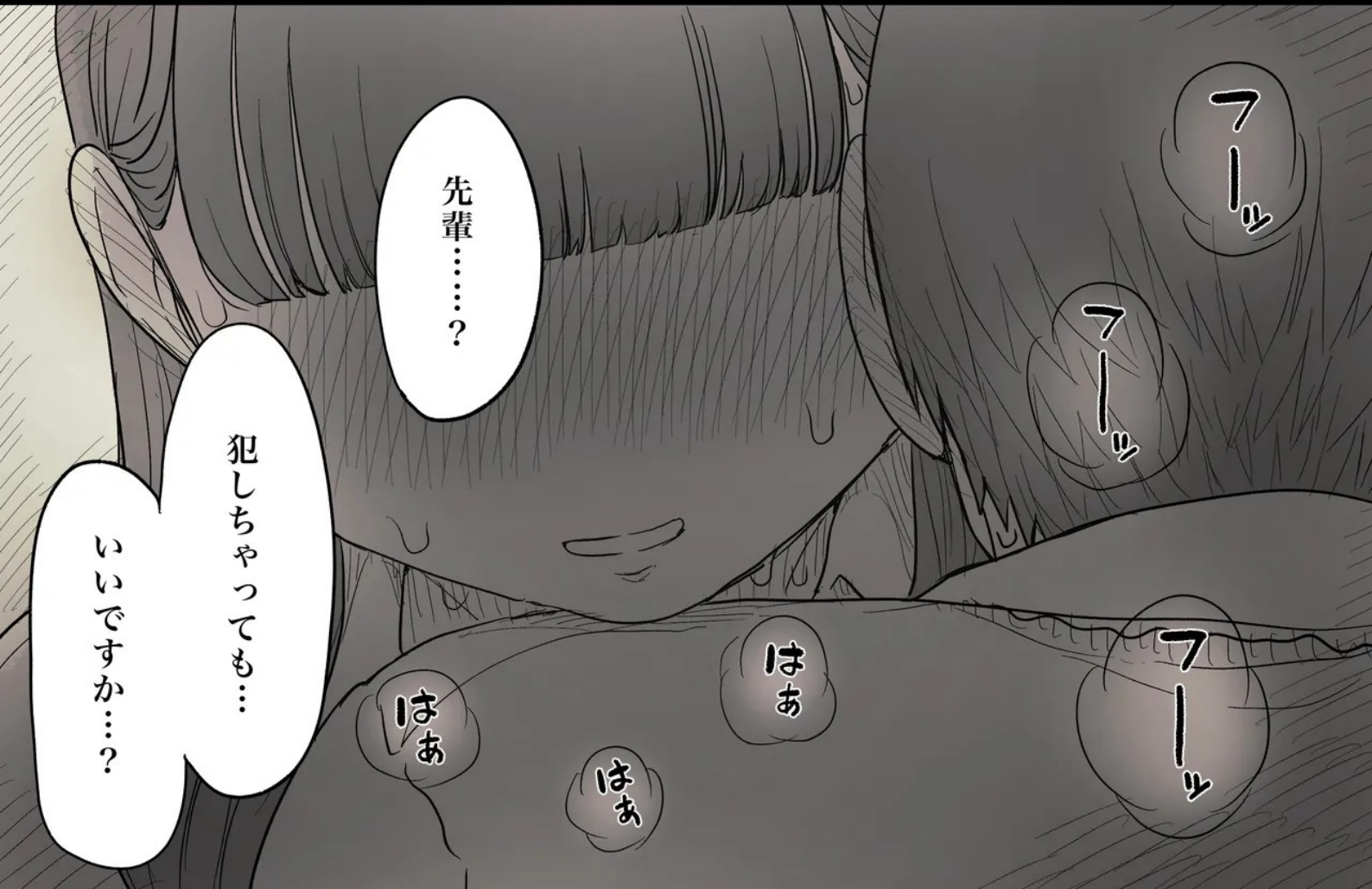
カチャ
カチャ



そんなに大っきいの…
だめ…入らない…
あ…あ…

大丈夫ですよお〜♡
このために
少しずつ少しずつ、
先輩の可愛いお尻を
慣らしてきたんですから。♡

きつと、今までで
一番、一番、
気持ち良〜
なれますよ〜♡



フーッ

フーッ

フーッ

はあ

はあ

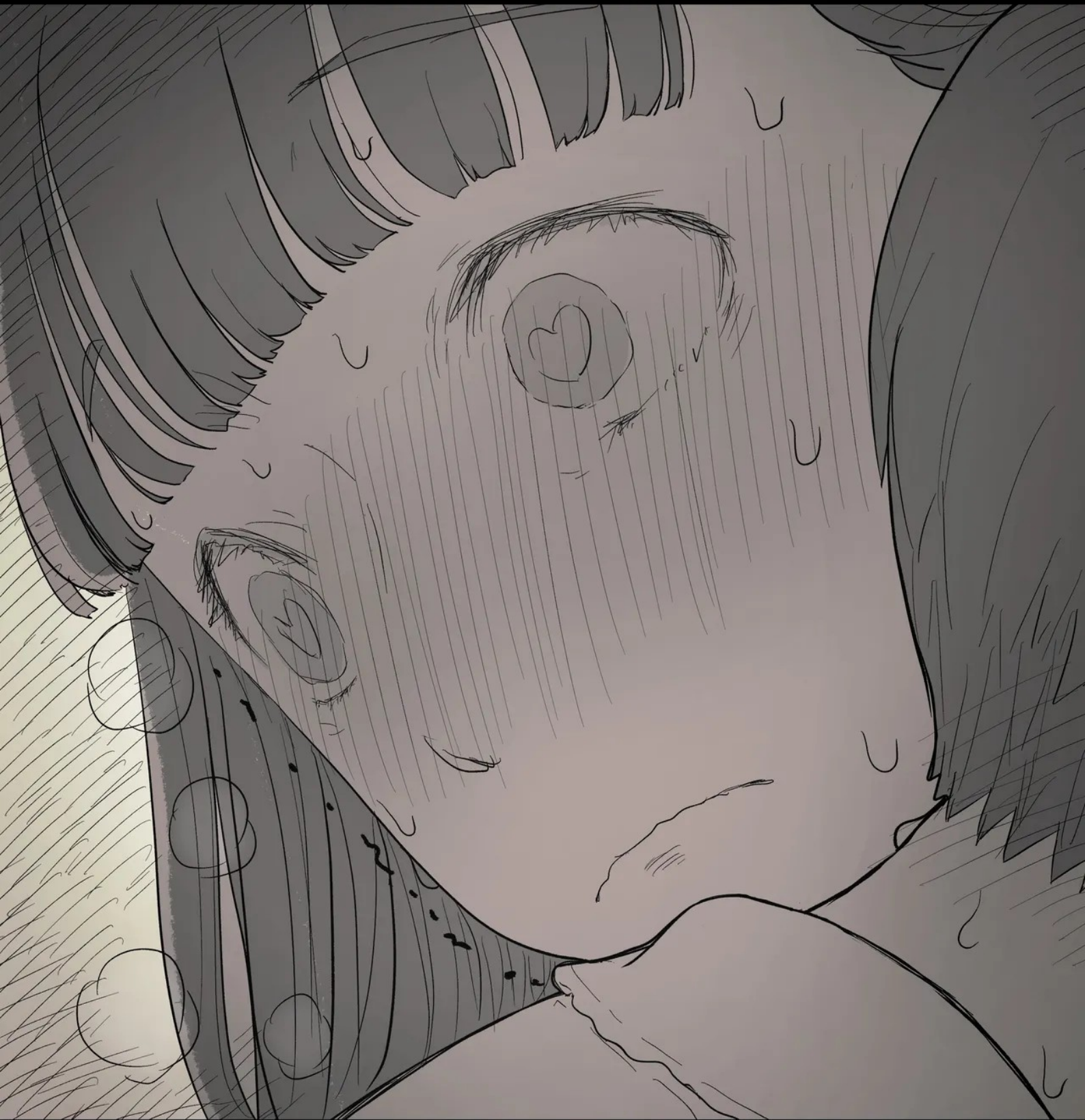
はあ

先輩……？

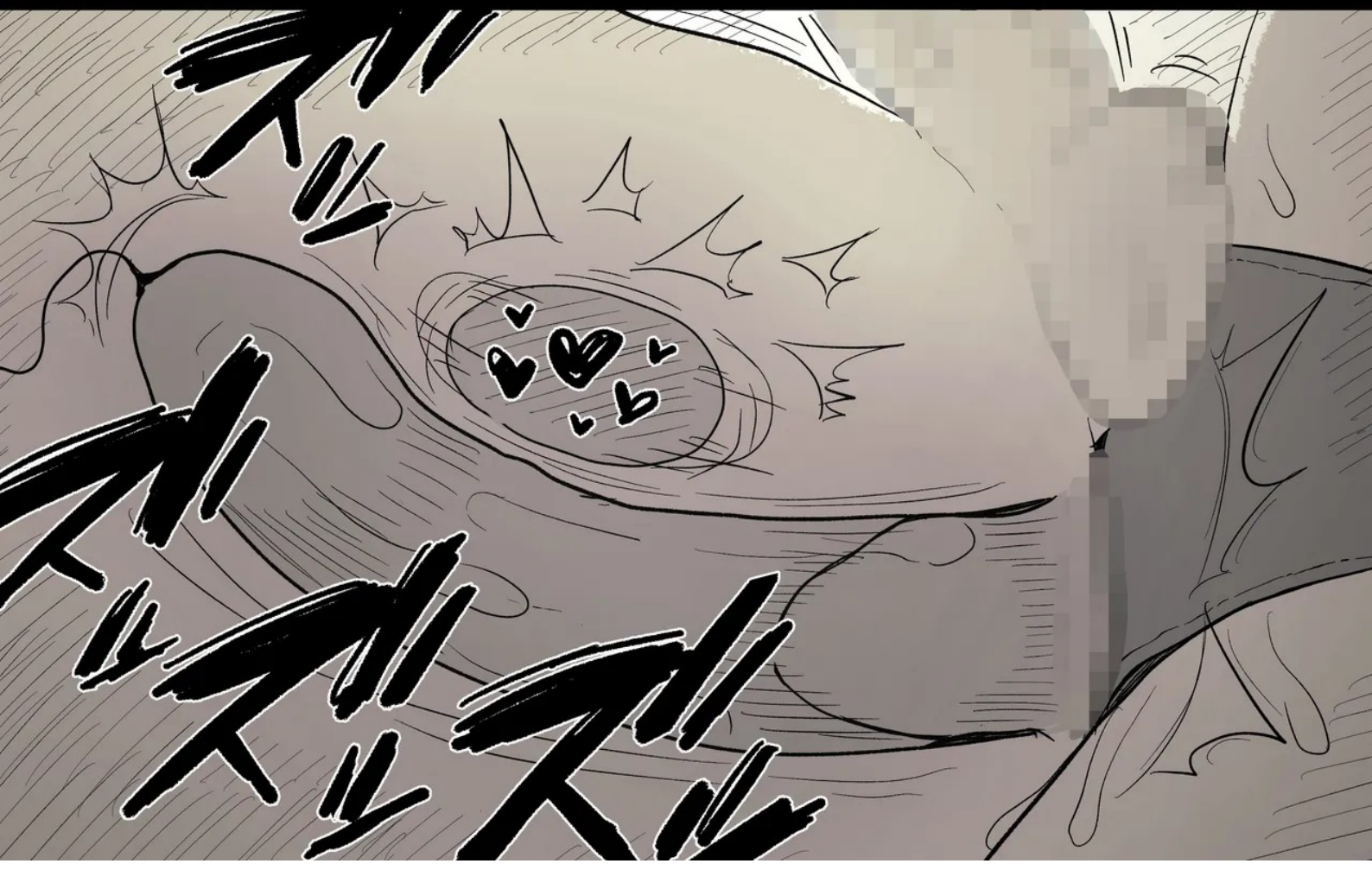
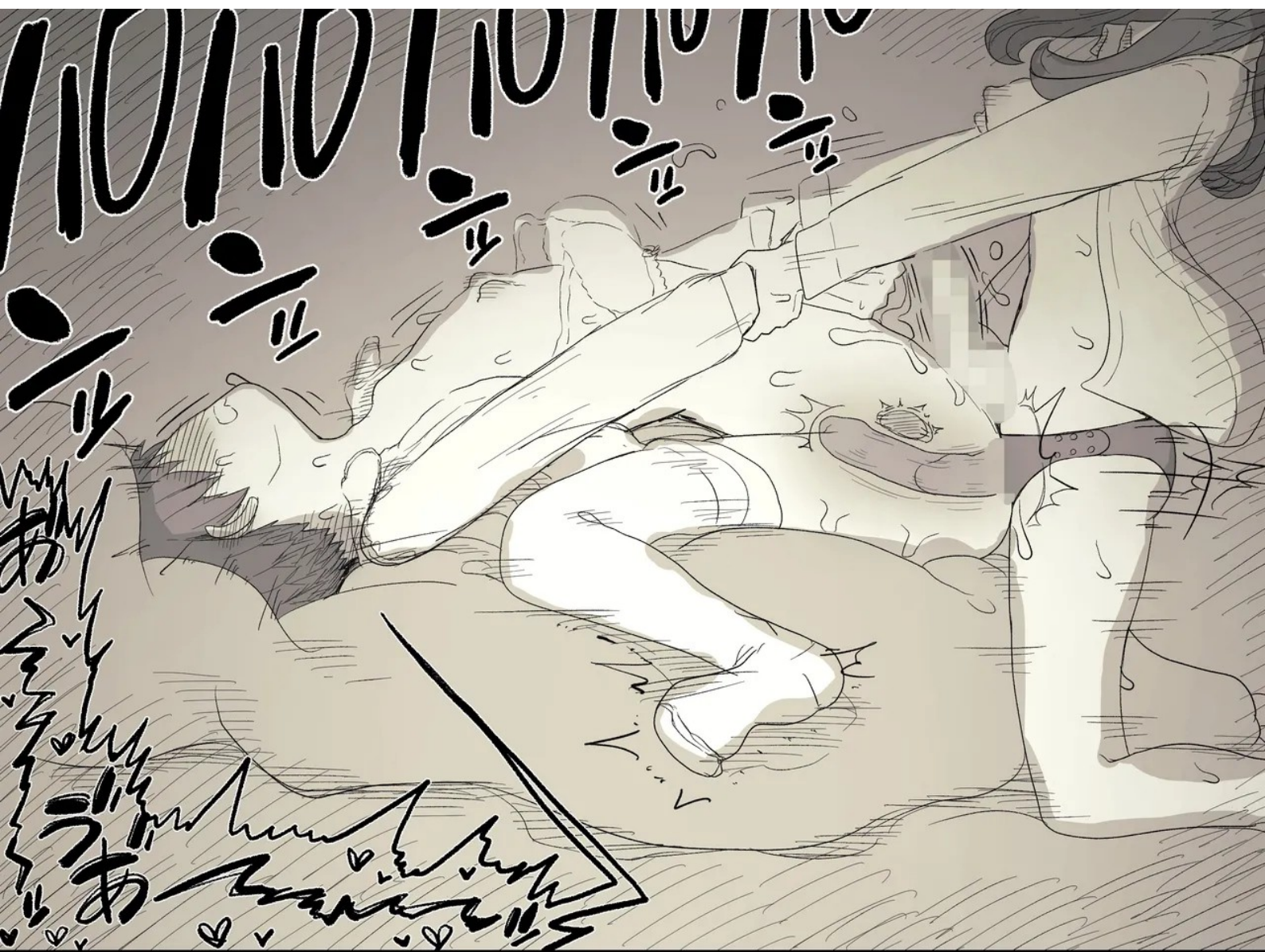
犯しちゃっても…

いいですか…？













クククク
クククク
クククク
クククク
クククク
クククク
クククク
クククク



う~~~~~う~~~~~う~~~~~
もう出ないっ 出ないようっ
あああつ

出ないけどすつごく
気持ちいいでしょう?
♡♡

うん気持ち良いっ
ああ体がおかしくなるっ!
♡♡♡

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

ふっ

カ
カ
カ
カ
カ
カ
カ
カ

ク
ク
ク
ク

ク
ク
ク
ク

ク
ク
ク
ク
ク
ク
ク
ク

ふ

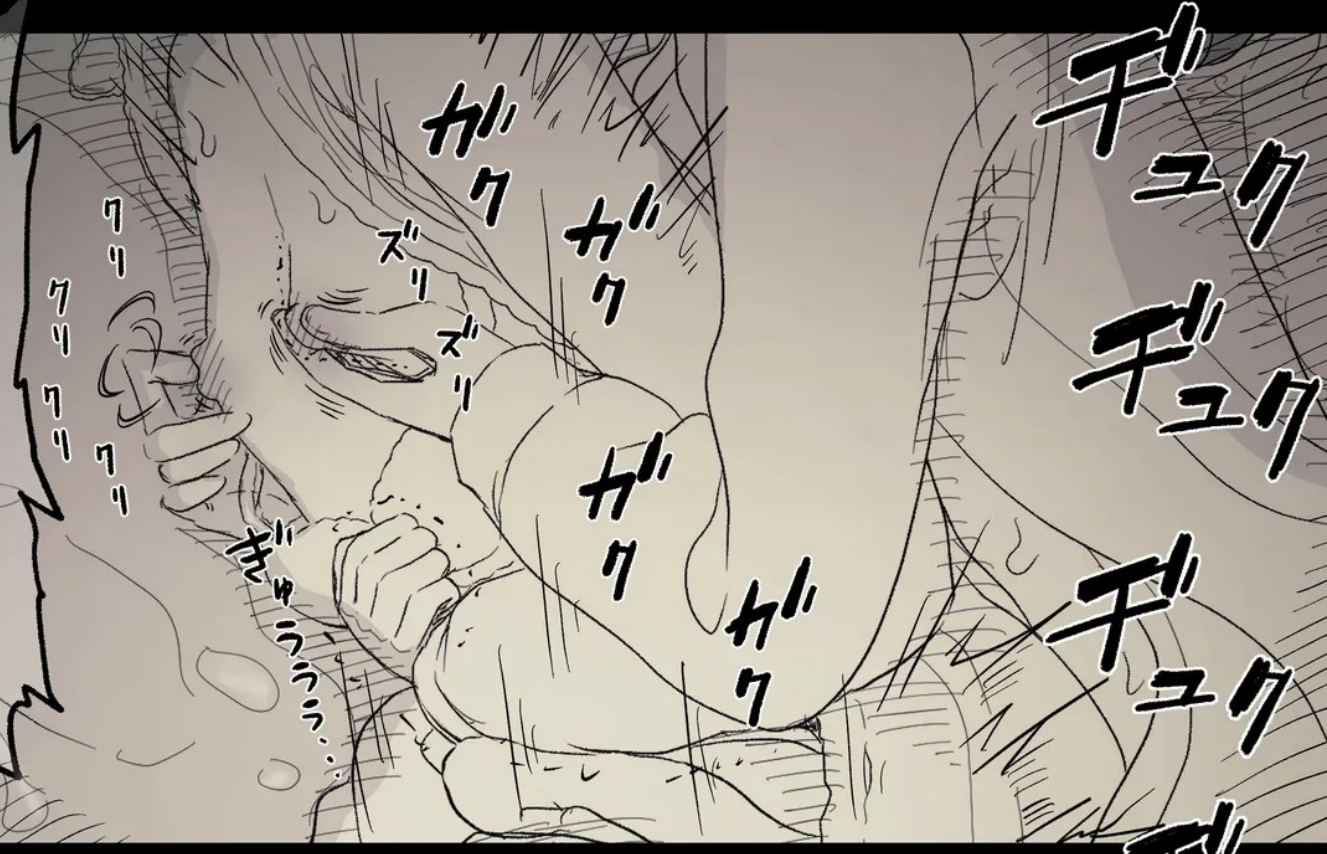
ふ

ふ

ク
ク
ク
ク

ク
ク
ク
ク

またイっちゃうっ！うああっ！
なんかイっちゃうってるっ！
全身でイっちゃうってるっ！
精子出でないのにイっちゃうってるっ！

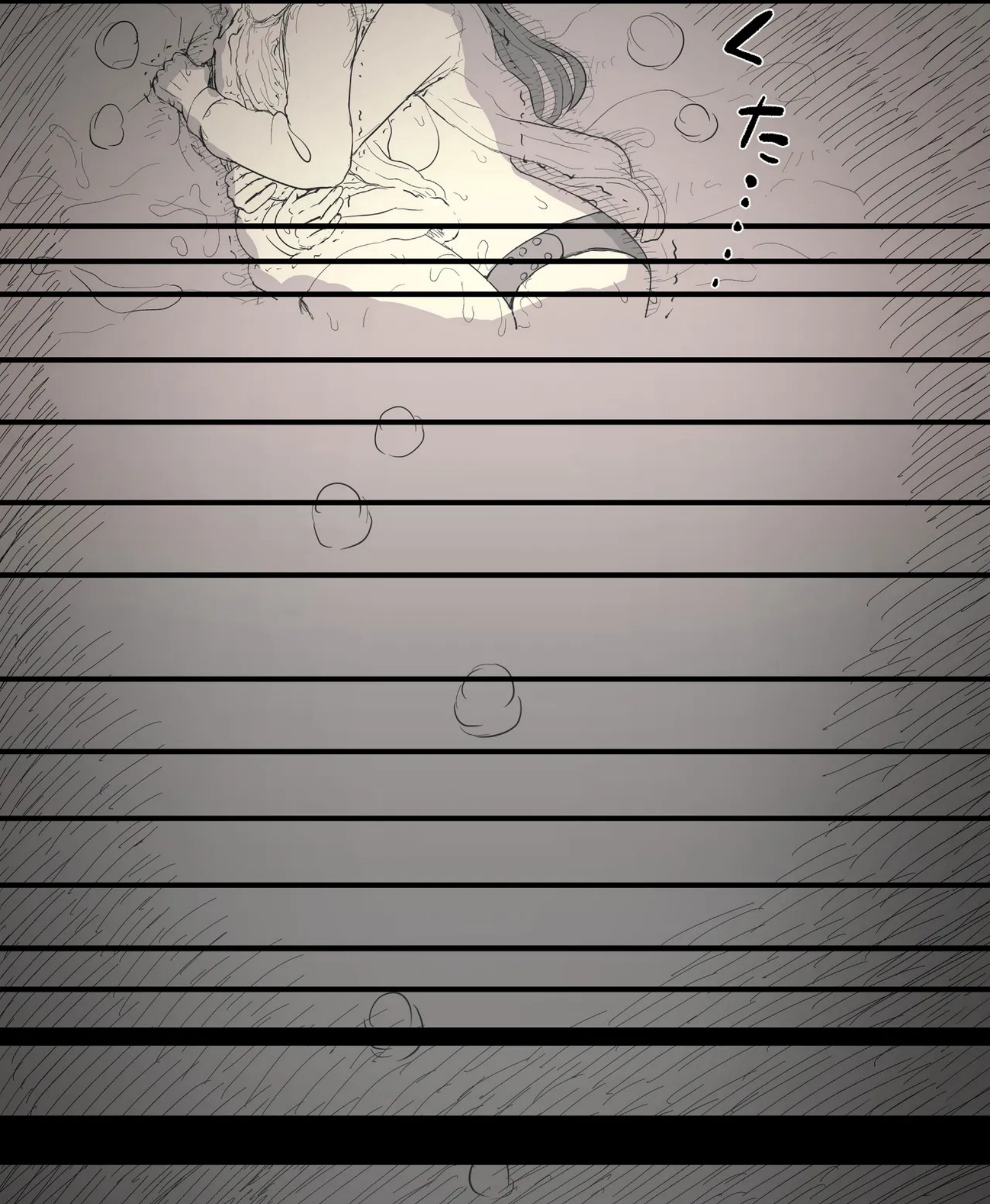


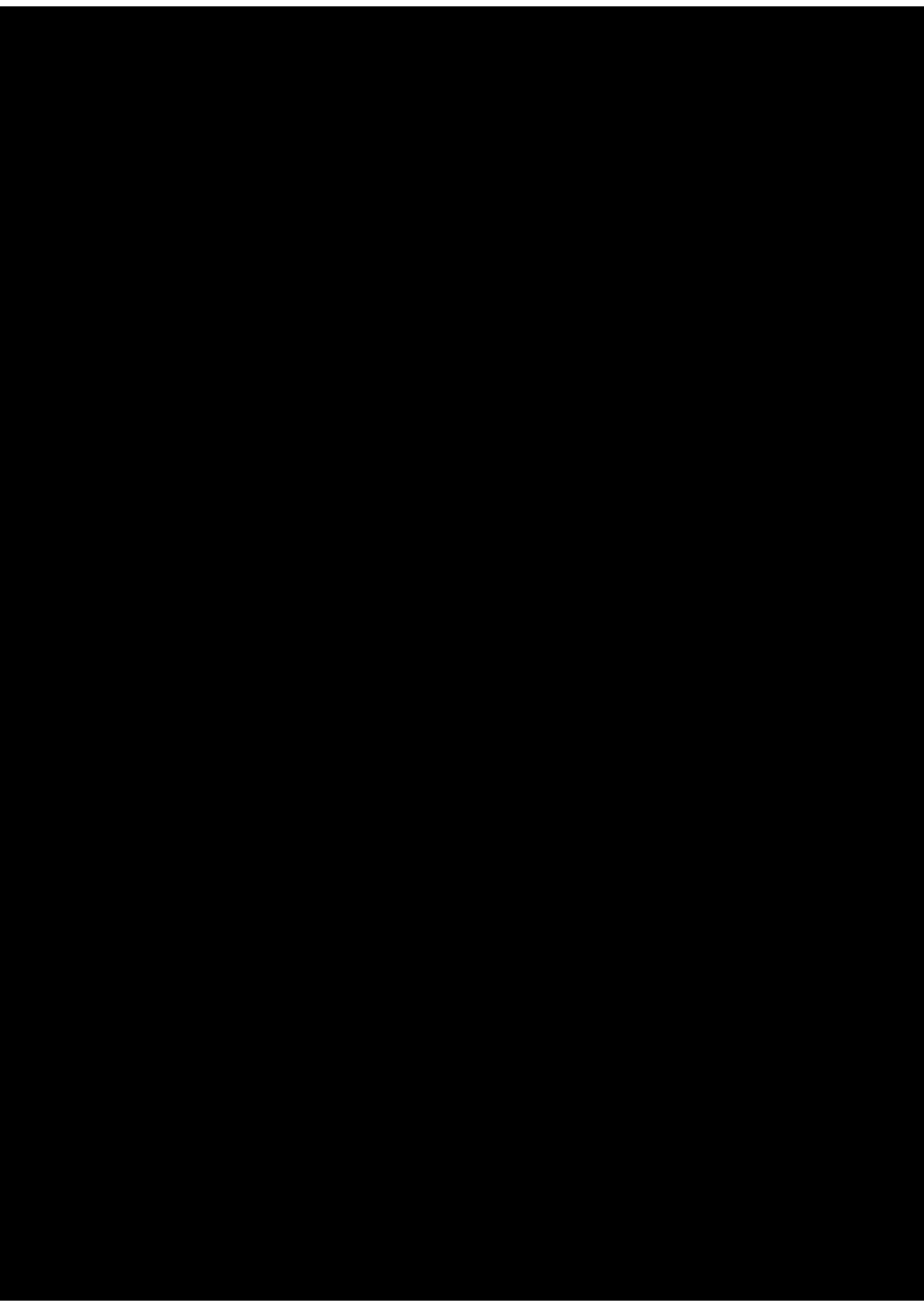
へうっやばいやばいやばいつ
またイくイくイくっイクっ！













私は、すっかり完落ちした先輩を目の当たりにして興奮止まらないまま...
もう今日は彼の体力が限界に来ている事を察し、大事に大事に寝かせ介抱しました。

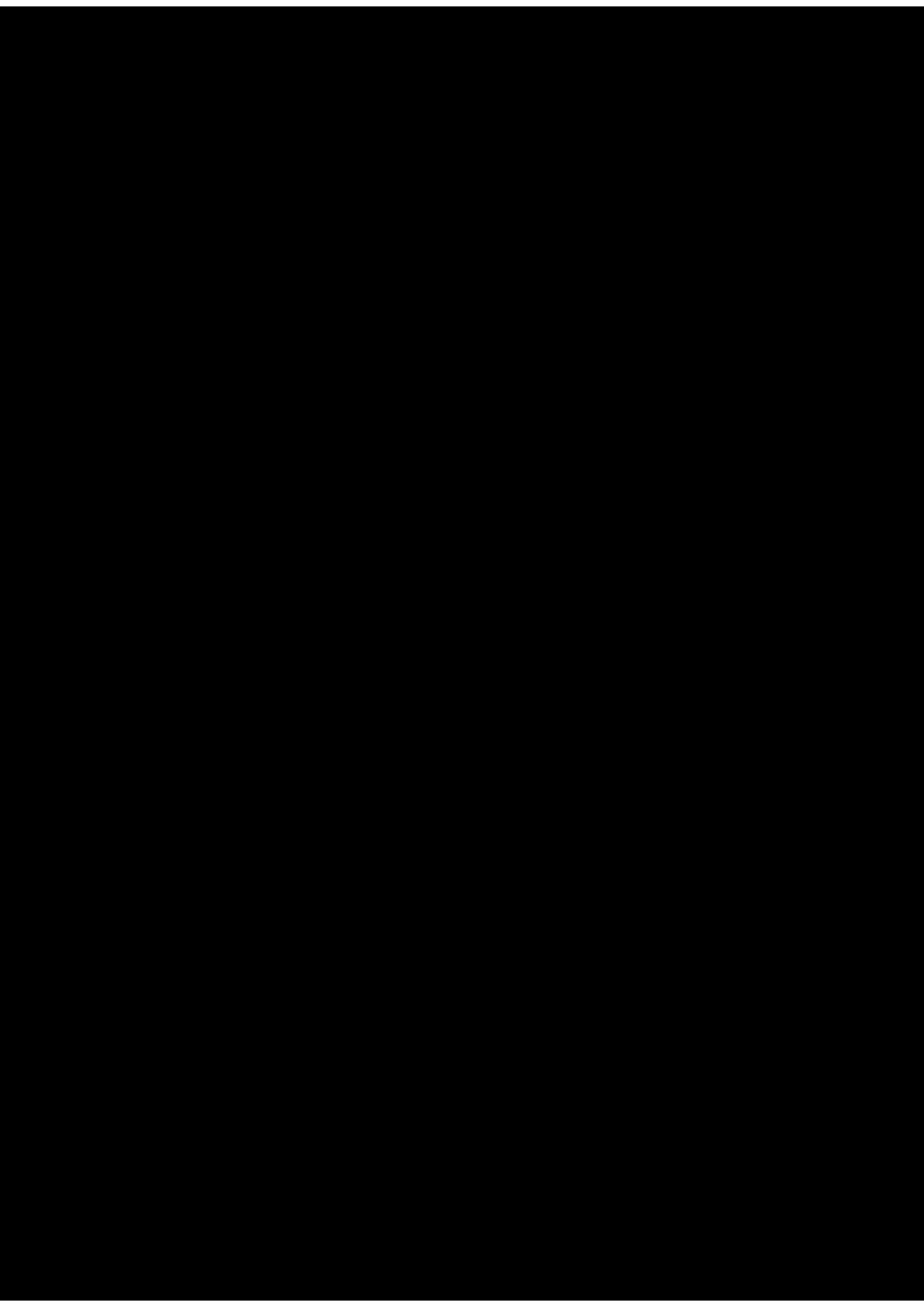
これからもいっぱい
可愛がってあげますからね♡

うん…

いっぱいいっぱい、
一緒に女の子同士で気持ち良くなろうね♡♡

うん…

はぁ好き…♡
先輩…
とっても可愛い子…♡♡



今日も一晩中イキ疲れて、
そのまま眠りについた先輩の愛らしい顔を堪能しながら
優しく抱き撫で続けて…

そして明け方、カーテンの閉めきった薄暗い部屋の中、
帰りの支度をする先輩に一つの事を言いました。

私は先輩に

お揃いのお尻用の玩具とローションを持って帰らせて…

「今日のこと思い出して、

この玩具で自分でシてくださいな…毎晩必ず…」

「そしたら、来週、もっともっと、素敵な事、してあげますからね…」

先輩は言葉を詰まらせながら
恥ずかしそうにありがとうと呟き、

私の事をぎこちなく抱きしめ、
キスをして帰りました。

ああ…

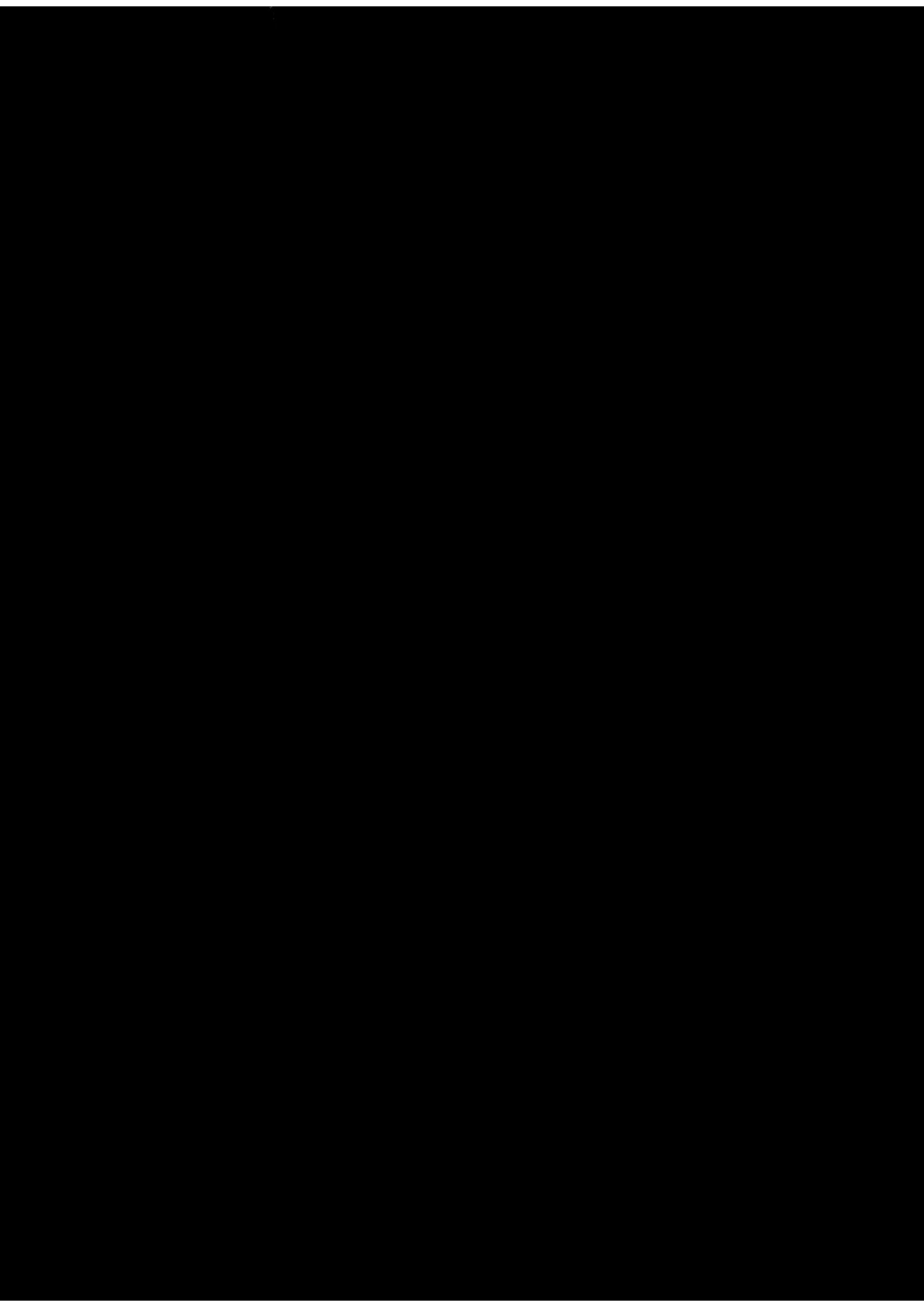
なんて可愛らしい人なんでしょう……。



私は…

私も自分が想像していた以上に彼が…

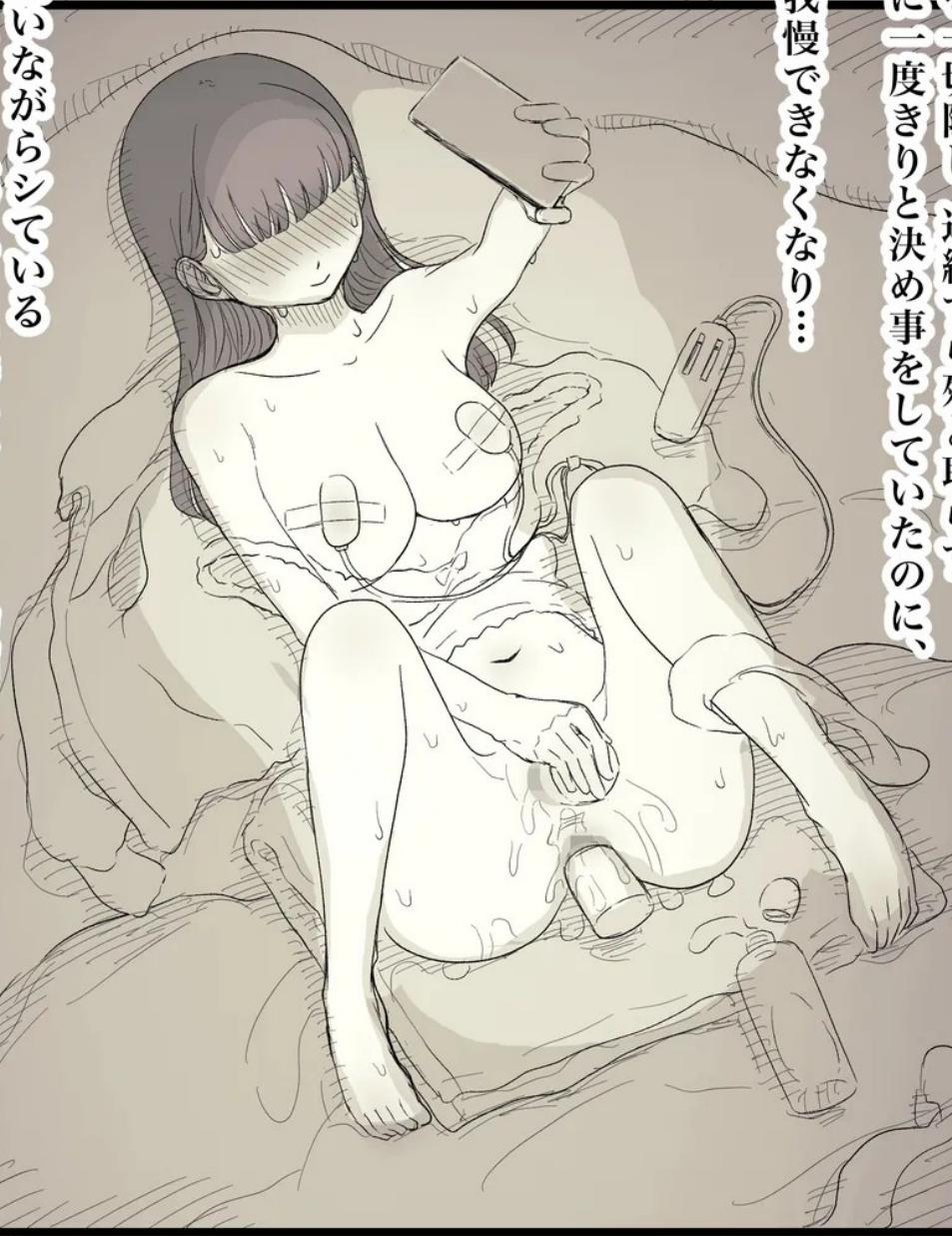
彼の事を……本当に好きになりすぎて愛が溢れて……



以前、私の方から決め事を…

私達の関係を一切隠し、連絡すら殆ど取らず、
会うのは週に一度きりと決め事をしていただけのに、

ついに私は我慢できなくなり…



毎晩、彼を想いながらしている

とてもははしたなくて恥ずかしい姿のショート動画を
先輩に送り付け、

それを観た先輩の反応を
求めるようになってしまいました。

「先輩も私と同じように

自分でしてるところをちゃんと見せてください。」

「私にも先輩の美味しいおかずを下さい。」

などと、はじかないお願いをしてしまいました…

先輩の反応を期待と不安と興奮の入り混じりながら待っていると、

1時間もしないうちに、彼から「恥ずかしいです…と…。」

約束通り、お揃いの玩具でお尻だけでしているお返しのショート動画が届きました。



そのあまりの可愛らしさに興奮して…
彼はこんな私の事も受け入れてくれて…

自分のはしたない姿も見せてくれて…
本当に身も心も
ぴったり噛み合ってるんだと思えて…

全てが繋がっているととても素敵すぎる感覚…。

私は今まで通り、
外では喋る事すら我慢できているけれど、

でも、このような秘密の愛情と性愛の入り乱れた
メッセージのやり取りは
完全に我慢できなくなってしまう…。

そして次の週末の日から、

私は彼とのこの愛に満ちた関係を

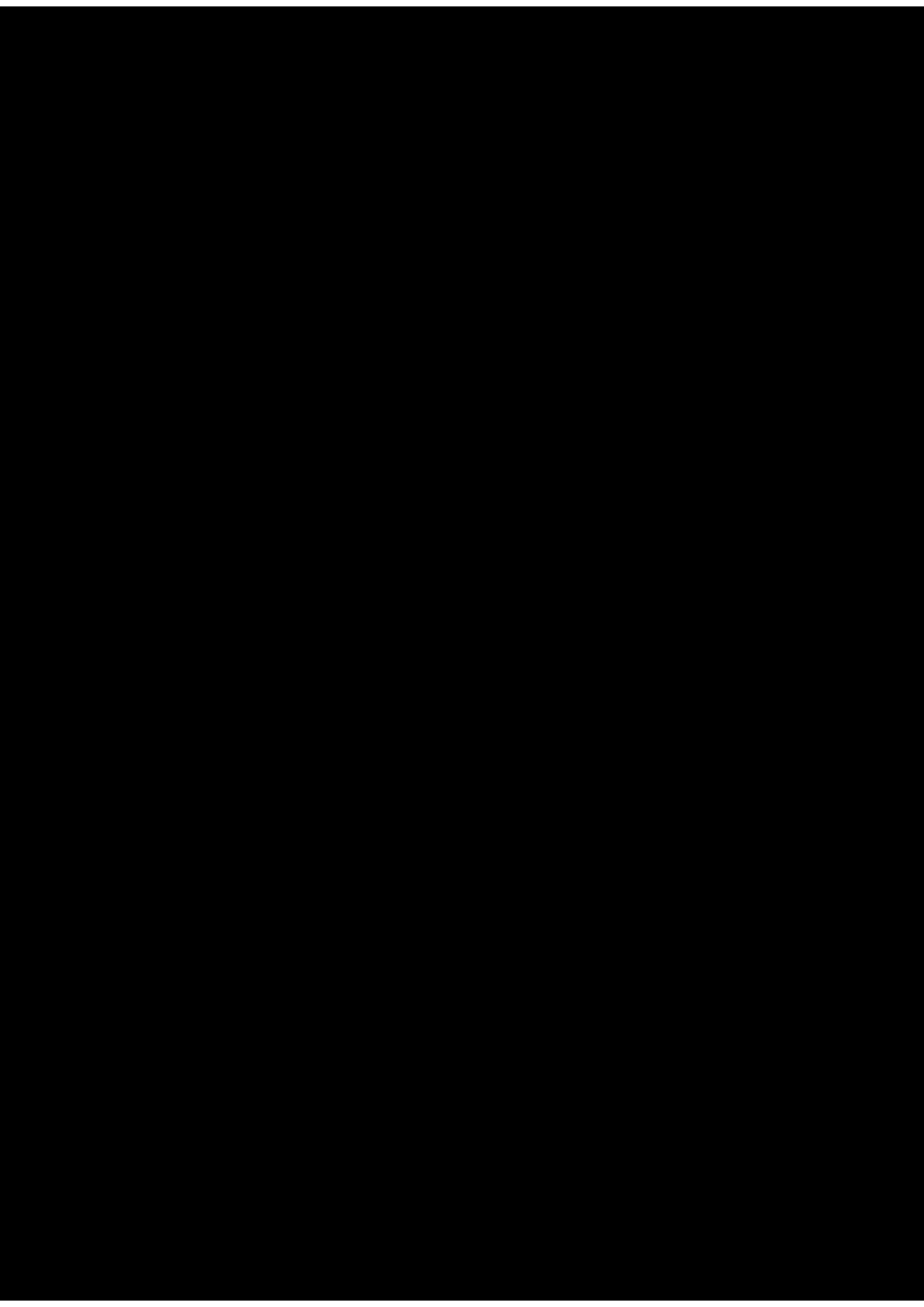
もつと深く深く甘美な関係に進行させていくために、

Sな面の私もMな面の彼も、

お互いが心の奥底で求めている淫靡なプレイを進めて行きました。

毎日興奮と多幸福感に身も心もいっぱいになりながら、

彼が更に私の前で自分の中に隠れている欲求を解放して可愛くなくなっていけるように……。



彼にお揃いの服で女装させながらのSEXを繰り返し、
何週間か経ちました。

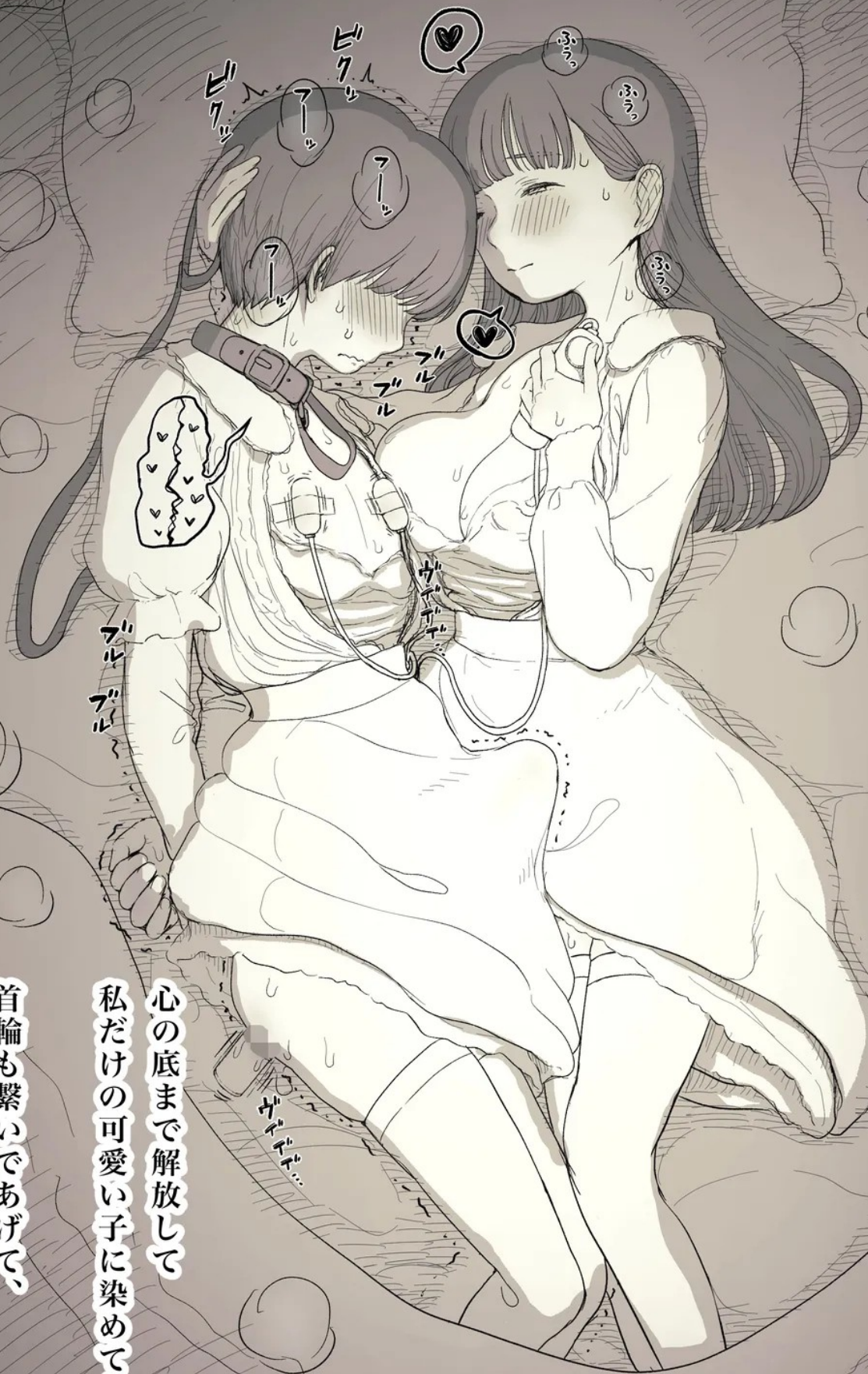
彼の心にまだ足枷となつて残っている、
僅かな羞恥心を完全に無くし、

心の底まで解放して

私だけの可愛い子に染めてあげる為に

首輪も繋いであげて、

私への奉仕を要求するようになりました。





舐めて♡

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

グッ

グッ

グッ

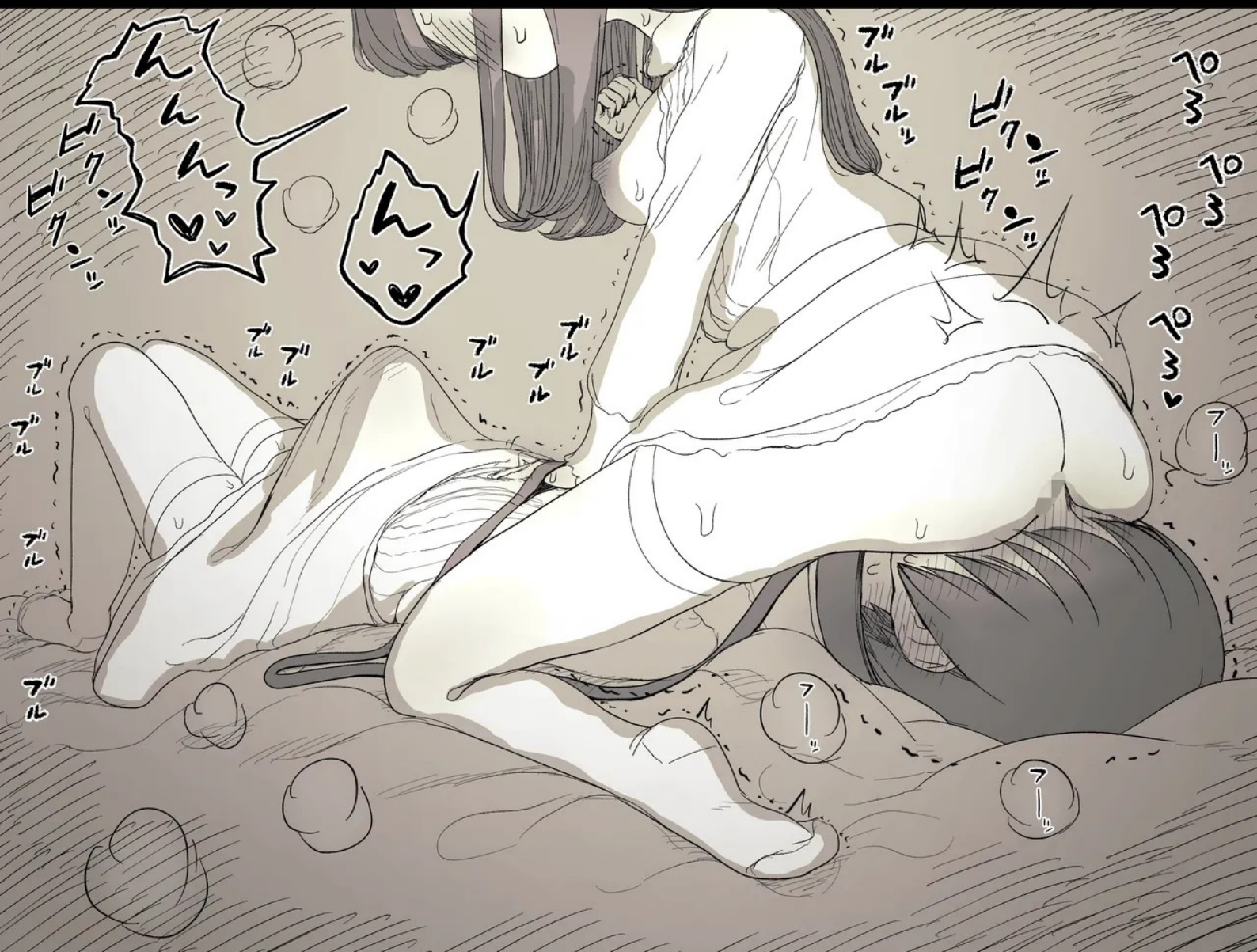
グッ

グッ

グッ...グッ...グッ...

グッ

グッ



ご褒美のおねだりも自然と口に出せるようになるまで、お胸とお尻のバイブでたつぷり焦らしおあづけしながら何度も促して奉仕する事を教え込んでいきました。

ちゃんとおねだりしないとイかせてあげませんよ♡

うう……

「お願いします、もっと気持ち良くしてイかせて下さい」って。

うううう……

は、恥ずかしいです……

だめ、言って♡

も、もっと気持ち良くして下さい……ううう……イかせてくださいっ

かわいいっ！

ぞくぞくぞく

ああっ先輩っ可愛過ぎていきそうっイクっ
あああっっ！

ビクッ

ビクッ

クチ
クチ
クチ

ビクッ

ビクッ

びる
びる
びる

フッ

フッ

フッ

ククククク
クチクチクチク
クチクチクチク

フッ
フッ
フッ

グイグイ……

グッ
グッ
グッ

私は先輩の奉仕を受けながら、おち●ちんを優しく撫で続け、射精する寸前で焦らし続けました。そして……

はあはあはあ……♡
もっと

ご奉仕したいですか？♡

は……はい……
したい……です……

かわいい♡

言えたね♡
えらいね♡

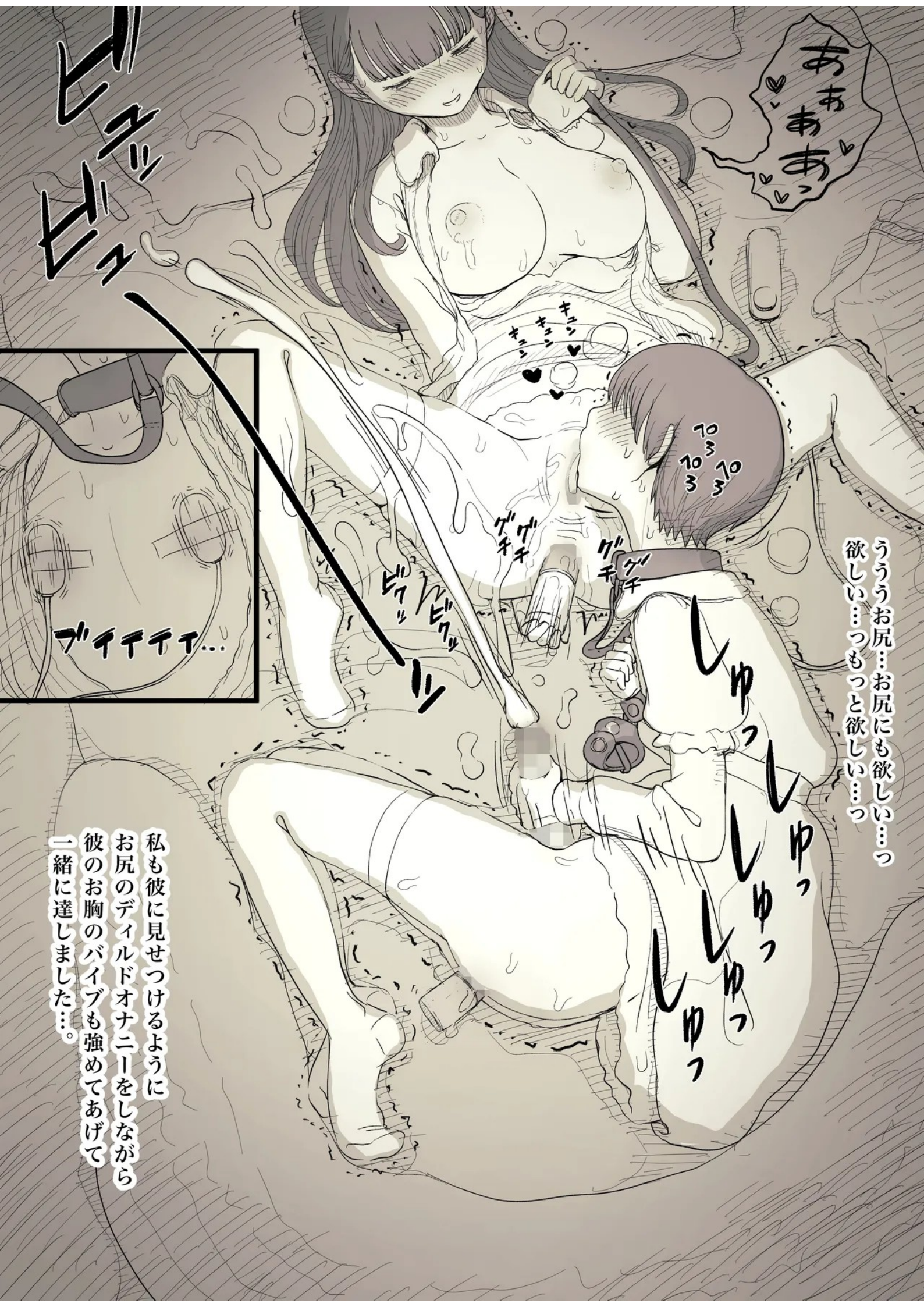
じゃあ、手の拘束……
外してあげますから、

いっぱい私の下のお口も
ワンちゃんみたい
にペロペロして

ご奉仕し続けてくれたら、
自分でおち●ちんしごいて
イっちゃって良いですよ♡

お尻の玩具は
絶対触っちゃダメです♡

うああ……
自分で……
おち●ちんだけ……



あああ
あああ

ジュッ
ジュッ
ジュッ

キュン
キュン
キュン

ソソソ
ソソソ
ソソソ

ゲゲゲ
ゲゲゲ

ゲゲゲ
ゲゲゲ

ビクッ
ビクッ
ビクッ

ッ

うううお尻...お尻にも欲しい...
欲しい...つもつと欲しい...
欲しい...つ

しゅっ
しゅっ
しゅっ
しゅっ
しゅっ
しゅっ
しゅっ
しゅっ

グイグイ...

私も彼に見せつけるように
お尻のデイルドオナニーをしながら
彼のお胸のバイブも強めてあげて
一緒に達しました...

散々焦らしてトロトロになった彼についてご褒美を。

尻でイかせてもらえず焦らされ続け、物足りなそうにしていた可愛い可愛い先輩を、ペニスバンドで二杯犯しながら、女の子の部分も男の子の部分も全部二杯可愛がってあげました。



このような事に彼も抵抗を示さず、
否定しながらも一杯気持ち良さそうに射精を繰り返して興奮していました。
やはり先輩もこのような愛の形を求めていたのだと確信に変わり、私はとても嬉しくなりました。

ふああ…♡
もう出ちゃった…♡
ずっと我慢してたものね♡

でも、折角着せてあげた
ばかりのお洋服を
こんなに沢山射精して汚して…
いけない子♡

あああごめっ…
ごめんなさい…っ!
ああまた出ちゃうっ!
ごめんなさいっ!



先輩の全部が可愛いっ！
 射精しちゃう男の子な先輩も
 犯されてイっちゃう女の子な先輩も
 全部全部可愛いっ！

たんたんたんたんたん

フッ
 フッ

フッ
 フッ
 フッ

ハハハ
 ハハハ

フッ
 フッ
 カリカリ
 カリカリ

ブル
 ブル
 ブル

じゅんじゅん
 じゅんじゅん
 じゅんじゅん
 じゅんじゅん

頭がおかしくなるほど
 気持ち良くなっている彼を見ながら
 私も頭がおかしくなり、

一心不乱に彼を犯し続け
 同時に乳首責めと

オナホールでしごきながら、

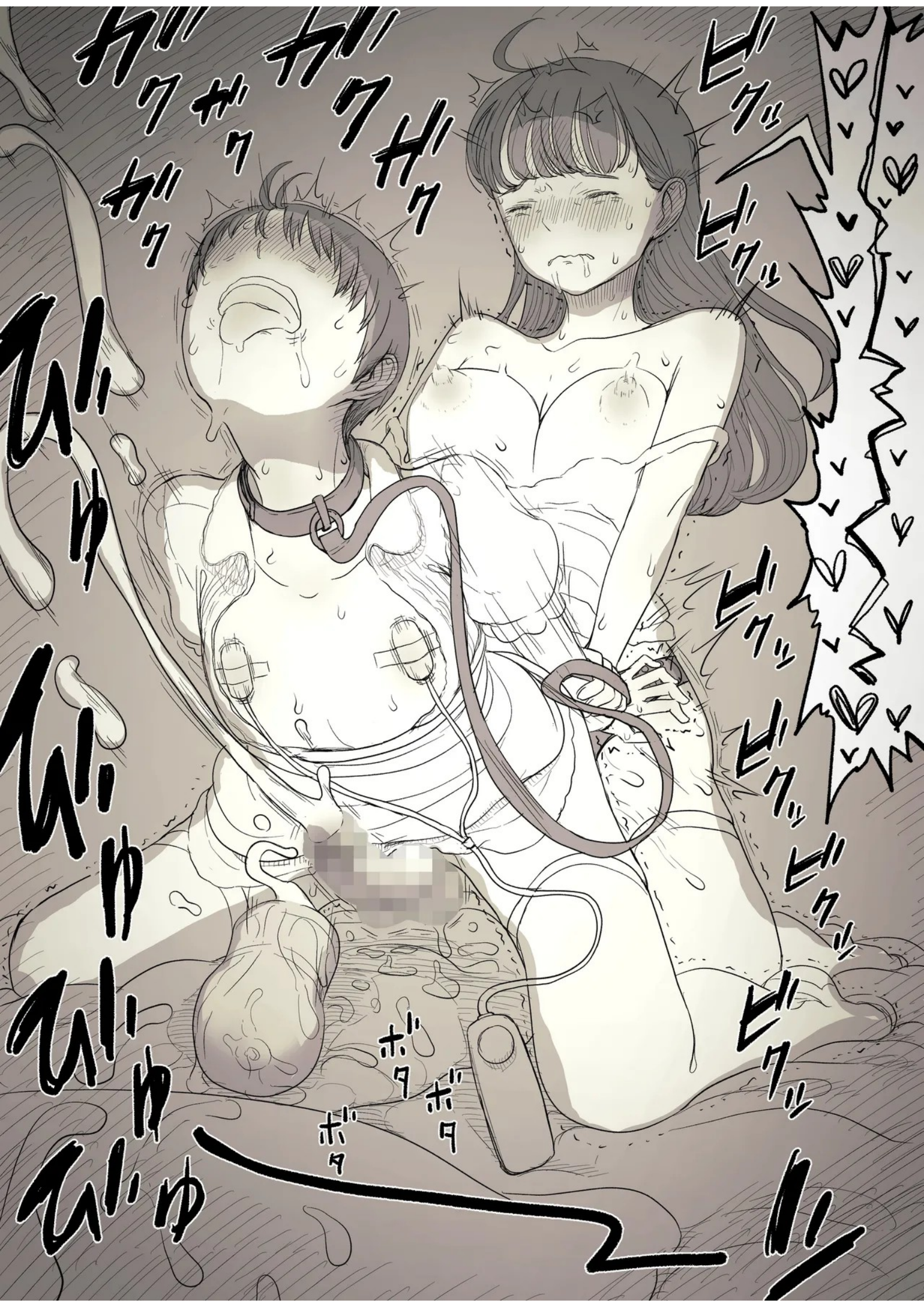
私も膈内で彼と繋がった

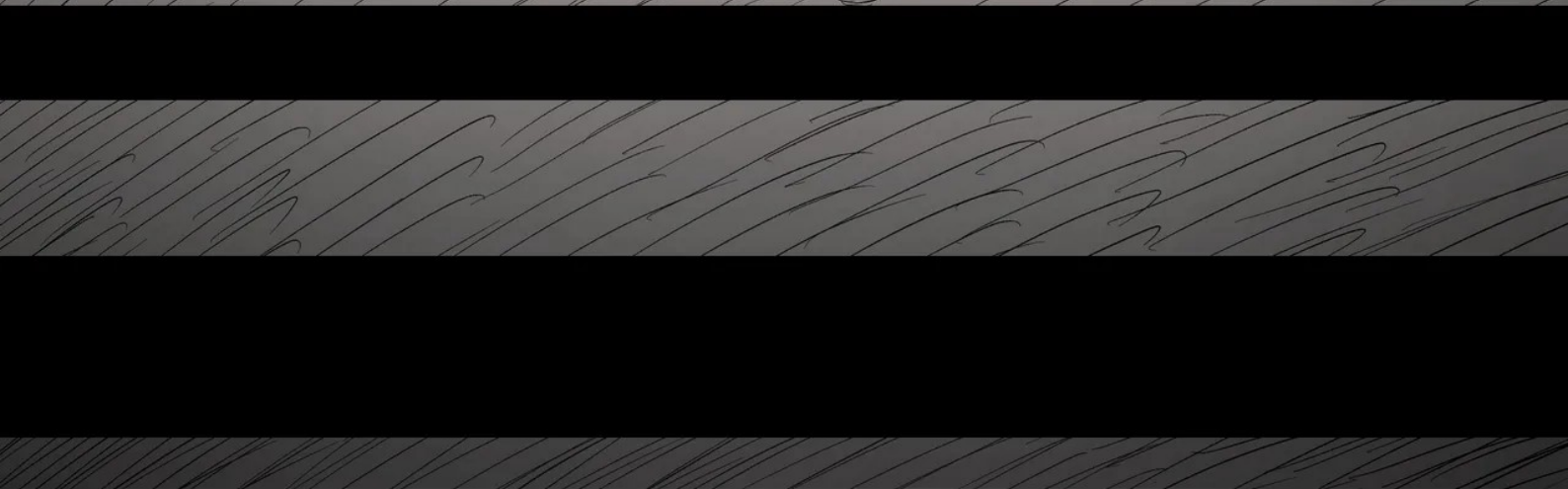
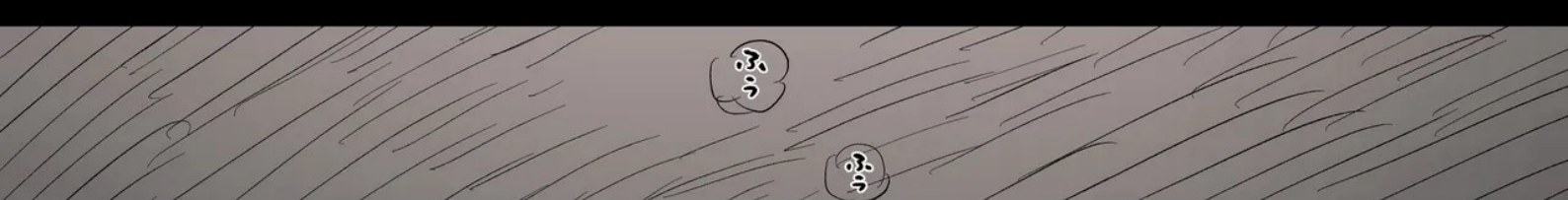
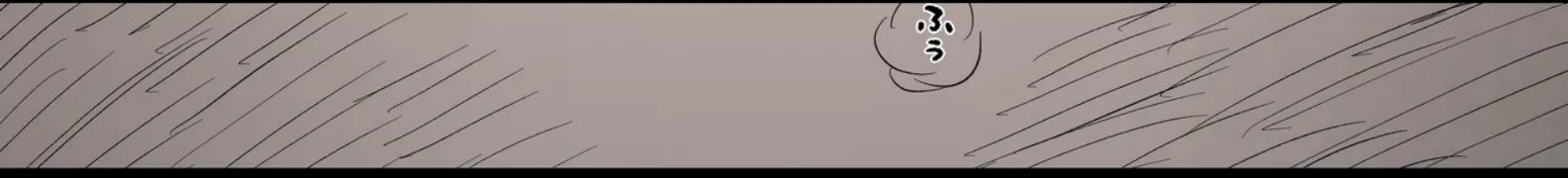
双頭デイルドで

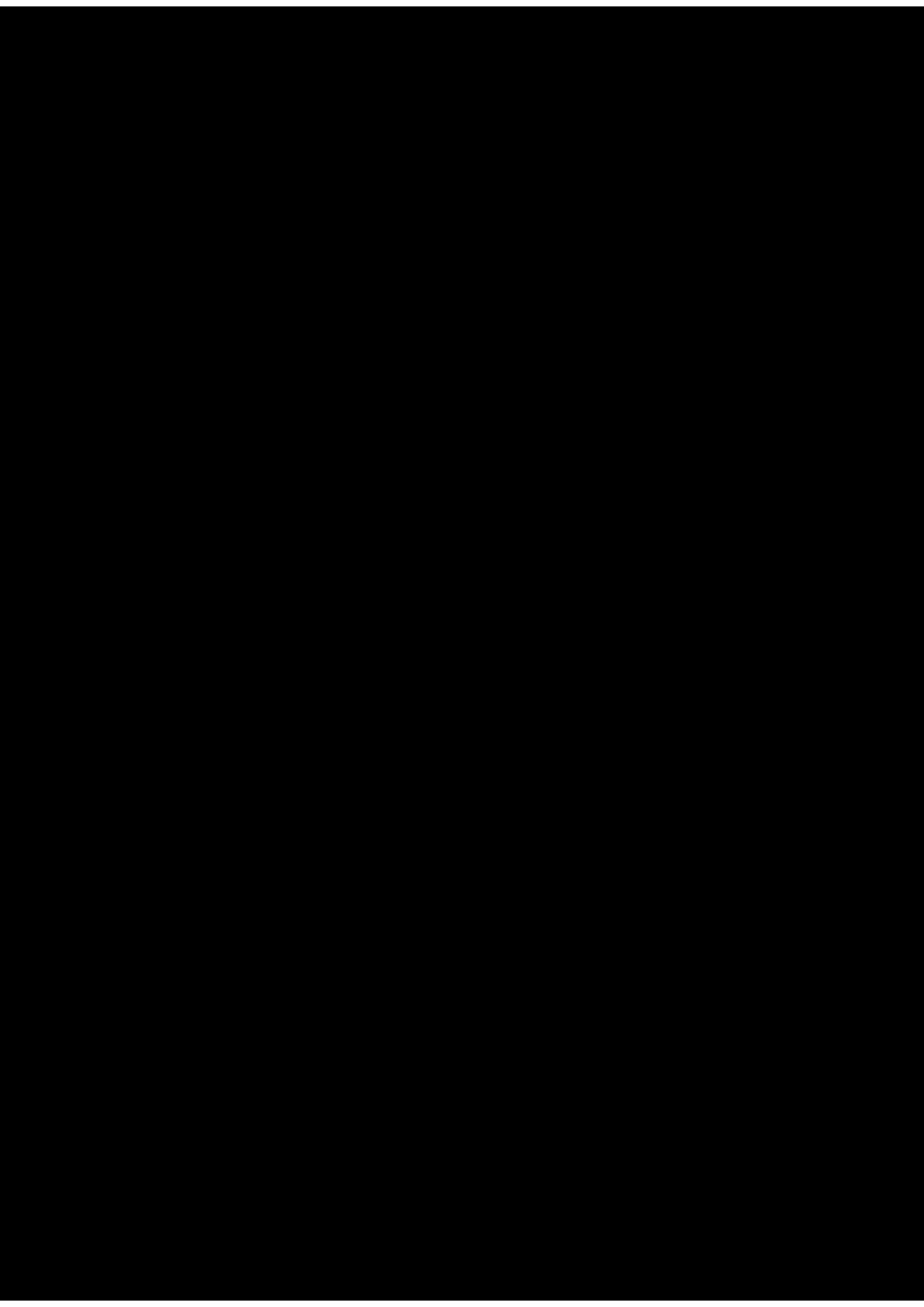
何度も何度もイキ続け……

そして……









この頃には、いつの間にか、
もう先輩との初めての日から半年ほどが経っていました。

今日も三人で全てを受け入れ合い、
くたくたになって心地良い一体感に包まれ寝ころがっていると…

私はずい…先輩に、少しだけ真面目な話をしてしまいました。

私が心を閉ざして誰にも話せなかった
自分の気持ちや過去の事を……。





先輩になら本当の自分の事も受け入れて貰える…。

そう心の底から思えたのか、こんなこと話す気なんてなかったのに、
つい、引かれてしまうかもしれない私自身の事や過去の事をいくつも話してしまいました…。

私は喋るのがとても下手なので、言葉を詰まらせながらゆつくりと……。

でも…彼は全部優しく聞いてくれて…

いつの間にか頭を撫でてくれながら抱きしめてくれて…

彼はそんな私に出来るように、彼自身の色々な思いを話してくれて……。

この人となら私は……。
二人だけのこの関係を……
彼とずっと一緒に……。

おわり

文学女子に食べられる 3

サークル： ひまわりのたね
作： 種乃なかみ

2020/11/23